

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・9月の売上は前年比で117%、前々年比で112%と好調であった。これまでは外国人観光客に助けられていた面があったが、ここ数年で初めて国内観光客による売上が増えるなど、今まで決して感じられなかった国内景気の回復を感じられる月であったことから、今後についてはやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・9月は今年に入ってから最低の売上の月であったため、今月よりは良くなることが見込める。
		百貨店(担当者)	・年末に向けて消費が上向いてくることに加えて、周辺ににぎわいが出てくることも期待できるため、景気は持ち直すことになる。
		スーパー(店長)	・前年の11～12月は例年よりも早い降雪の影響などで厳しい状況にあったが、今年はその反動による増加が期待できる。
		家電量販店(経営者)	・厳しい状況ではあるが、季節要因による景気の上振れが期待できる。
		乗用車販売店(経営者)	・新型車を中心に、先行指数である新車受注が高水準であった前年の水準を超えており、一時期の停滞ムードが解消しつつある。
		乗用車販売店(従業員)	・新型車の投入に伴い、前年を上回る販売量が見込めることから、今後についてはやや良くなる。
		自動車備品販売店(店長)	・冬タイヤの値上げ後も売上が前年を上回っている。客の購入点数も増加していることから、景気が上向き傾向にある。
		通信会社(社員)	・総選挙の影響で一時的に売上が減る懸念もあるものの、最終的には上向きになることが見込める。
		通信会社(企画担当)	・首都圏と比べて新製品に対する予約件数、引き合い件数の増加幅が大きく、冬季に向けて販売量の改善が期待できる。
		住宅販売会社(経営者)	・10月の総選挙で与党が大勝すれば、ムードが良くなり、経済面にもプラスとなる。
		商店街(代表者)	・秋から冬への衣替えの時期ではあるが、客単価がなかなか上がらず、苦戦している店舗が多いことから、今後も変わらない。
		商店街(代表者)	・総選挙の話が急に浮上したが、客の雰囲気から今後も大した変化がないまま推移する。
		商店街(代表者)	・今のところ、年末は例年と同様のイベントなどが行われる予定であるため、売上が伸びるような要因は見当たらない。季節要因を除けばやや悪い状態のまま変わらずに推移する。
		百貨店(販売促進担当)	・今後も、日常の買物をするような地元客が減少する一方で、外国人客が増加する傾向がしばらく続くこととみられるため、景況感は変わらない。
		百貨店(役員)	・ここ半年、月による変動が激しいため、先行きの動向が判断しづらい状況になってきている。
	百貨店(営業販促担当)	・前年の台風被害による落ち込みの反動で、衣料品については若干の回復傾向が出てきているが、イベントへの集客が弱くなっている。また、客単価も上がってこないため、しばらくは楽観できない状況が続く。	
	スーパー(店長)	・目的買いの需要が高くなるとみられるが、依然として客の節約志向は変わらないため、今後も景気は変わらない。ただし、総選挙後の動向によっては変化が生じることになる。	
	スーパー(店長)	・変動要因が見当たらないため、今後も変わらない。	
	スーパー(店長)	・ここ数か月、競合店の中でも、ディスカウント業態のスーパーが力を付けており、客がより単価の低い商材、安い商材を求めている状況がつかえる。	
	スーパー(役員)	・消費動向は悪くないとの報道もあるが、スーパーのような食品を中心とした業態では、高齢化の影響もあり、消費動向が良くなることは期待できない。ドラッグストアでの食品取扱構成比の上昇、ディスカウント業態との価格競争などで、経営環境はますます厳しさを増してくることになるため、今後も景気は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・週末や夜間の乗客数減少が続いている。食料品に対する客の消費マインドは依然として弱く、その一方でサービス売上が増加していることから、スマートフォンや観光などのコト消費にお金の使いどころが変化している状況がうかがえ、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後については、大きな公共工事の予定などがないため、変わらないまま推移する。
		コンビニ（店長）	・景気が良くなる要素が見当たらない。客の節約志向もまだ続きそうのため、景気は変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・来客数が前年を下回っていること、売上が前年と変わらないことから、今後も景気は変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・社会情勢の不安定さが増しており、総選挙が終わるまで予断を許さない状況となっている。
		家電量販店（店員）	・今後については、朝晩の冷え込みが厳しくなることで、暖房機などの売行きが良くなることが期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・客への相談対応を基本路線にするなど、ノウハウを強化した新形態を目指さないと生き残れない状況になってきている。ほとんどの店舗では対応できないため、景気が上向くことを期待している。
		高級レストラン（経営者）	・これから総選挙期間に入るが、期間中は商売上がったたりである。今後の景気が上向くかどうかは総選挙の結果次第の面があるが、先行きへの不透明感は強い。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後も景気は変わらない。近々、輸入オリーブ油が値上げになるため、食材費を削る必要が出てきている。また、総選挙期間中は客の入込が減少する傾向にある。そのほか、消費税増税が話題に上がってきていることで、今後の家計消費の減退も懸念される。道東のサンマ加工業者からは、不漁で原料を仕入れることができず、今年はサンマ缶を作れないとの話があり、地元経済への打撃が計り知れないようである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・今後については、コンサート、イベント、学会、報奨旅行などのプラス要因があるが、外国人観光客の募集型企画旅行の催行率がどのようになるのが不確定要素となっている。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見る限り、良くも悪くも大きな変動が生じるとは考えられない。
		旅行代理店（従業員）	・第3四半期の販売量が前年とほぼ同じであり、今後の販売量の増加を見込むことが困難な状況となっている。
		旅行代理店（従業員）	・来客数の伸びない状況が続いている。前年との比較でもほぼ横ばいで、良くないままであることから、今後についても変わらない。むしろ、悪い方向に向かうことを懸念している。
		タクシー運転手	・現在の乗務員不足が解消する目途が全くないため、今後もここ数月と同じようにタクシーの稼働率の悪い状況が続く。売上も前年を上回ることはならない。
		タクシー運転手	・国内観光客や外国人観光客、イベント関係者の予約状況に変化がみられないため、今後も景気は変わらない。
		タクシー運転手	・今のところ、1次産業の状況があまり良くなく、この先の景気が上向く材料に乏しいことから、引き続き景気は緩やかに下向きで推移する。
		タクシー運転手	・今後の景気回復への期待を持っていないため、今と同様の状況のまま推移する。
		観光名所（従業員）	・北海道新幹線の開業効果のあった前年は特殊な年であるため、利用乗降客数を前々年と比較すると、ほぼ同数で推移していることから、今後も変わらないまま推移する。
		観光名所（職員）	・アジア圏からの外国人観光客の増加に後押しされ、来場者数は好調を維持している。経済情勢の変化などがない限り、こうした流れは当面続く。
		美容室（経営者）	・今年は季節変動があまり感じられないことから、今後も同じように堅調に推移することになる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、冬型の気候に近づくことで、しけによる欠航などの影響が出てくる懸念がある。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の動向も含めて、総選挙の結果によって今後の経済政策が決まってくるとみられるため、分譲マンション市場の動向も総選挙の結果に影響されることになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		商店街（代表者）	・毎回のことだが、総選挙は消費に対して大きなマイナス要素であるため、10月の動向が心配である。また、中国人観光客の渡航制限の動きがみられていることで、今後の外国人観光客が減少することも懸念される。	
		商店街（代表者）	・これから寒くなると、来客数が減ることになるため、今後の景気はやや悪くなる。燃料代がかかるようになることもマイナス要因である。	
		百貨店（売場主任）	・これ以上、景気が良くなるような要素が見当たらないため、現状維持のまま推移するとみられるが、外国人観光客の伸びが前年11月から始まったため、11月以降は伸びが鈍化することが見込まれる。また、中国人観光客の渡航制限が始まりそうなこともマイナス要素である。	
		スーパー（企画担当）	・過去の傾向から、総選挙はどちらかという消費にはマイナスの要因となる。また、小売各社の値下げ競争が激しさを増している。これらのことから、予断を許さない状況にある。	
		スーパー（役員）	・魚が獲れないため、水産関係の不振がひどい。従業員の解雇もあり、地域全体の経済に影響が出ている。	
		コンビニ（エリア担当）	・漁業関係の資源が減少しているため、今後の景気が上向くことは厳しいといえる。	
		コンビニ（エリア担当）	・道東の漁業不振の影響が近隣店舗の数字にも表れ始めている。今後も持ち直す見通しはないため、景気が低迷することになる。	
		乗用車販売店（経営者）	・今後、基幹産業である漁業の不振が、各方面に影響を与えることになれば、関連企業を中心に消費者マインドが低下することになり、販売量の減少につながる懸念される。	
		乗用車販売店（従業員）	・例年と同様に、年末に向けて販売量が減少するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。	
		乗用車販売店（従業員）	・10～11月のタイヤ交換の時期になると、来客数が増える分、商談のチャンスも増えるが、北海道では年末を控えて買い控えが強まる傾向があるため、販売量は9月よりも減ることになる。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格が上昇傾向にあるため、客の節約志向が強まる懸念される。	
		高級レストラン（スタッフ）	・消費税増税が現実味を帯びてきていることから、今後の景気への不安が表れつつある。	
		一般レストラン（スタッフ）	・総選挙を控えて、利用客の減少が見込まれる。	
		旅行代理店（従業員）	・観光の閑散期となり、2月の流氷シーズンまでは集客の伸びない状況が続く。また、北朝鮮情勢や総選挙など、マイナス要因も見込まれるため、今後については厳しい状況にある。	
		旅行代理店（従業員）	・冬場に向けて旅行需要が減少傾向になることが見込まれる。	
		タクシー運転手	・これからオンシーズンに入るが、人員不足の状態にあることから、業績悪化が懸念される。	
		美容室（経営者）	・総選挙が行われても、結局は税負担が増えるとみられるため、今後についてはやや悪くなる。	
		×	商店街（代表者）	・シーズンオフのため、今後の景気はやや悪くなる。
		×	観光型ホテル（役員）	・北朝鮮情勢の悪化が外国人観光客の集客に影響を及ぼす懸念がある。また、総選挙が行われることで、国内旅行客の動きも鈍くなることが見込まれる。
		×	タクシー運転手	・夜の繁華街への人出が増えることは期待できないため、今後については悪くなる。また、外国人観光客はリゾート地に長期滞在する傾向があり、観光周遊しないことから、観光需要も見込めない。
企業 動向 関連  (北海道)		-	-	
		食料品製造業（従業員）	・スポット需要ではあるが、冬季に向けて新規の案件が決まってきているため、今後の売上はやや良くなる。	
		輸送業（営業担当）	・今のところ、今年は大きな台風などによる農作物への被害もあまりないため、砂糖、でん粉、生乳の輸送量の増加が期待できる。	
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・例年に比べるとやや遅れているが、少しずつ新規の受注案件が出始めている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・仕事の納期や工期の遅れが多少みられるため、今後については忙しくなり、製品の販売量などが回復することになる。
		食料品製造業（従業員）	・景気が悪くなることはあるかもしれないが、景気が良くなるような材料は特にない。
		家具製造業（経営者）	・東京オリンピックに向けて様々なプロジェクトが動き始めており、首都圏を中心に景気が上向くことが見込まれるものの、地方への波及までは見込めない。
		建設業（経営者）	・土木、建築共に稼働がピークを迎えて、人手不足となっていることから、新規案件の受注は一段落している。年明けからは来年度の受注に向かうことになる。また、総選挙の影響で補正予算がどうなるのかが心配である。
		建設業（役員）	・今年度内の工事量はほぼ確定している。現場配置可能な人員数の制約もあり、これ以上の年度内工事の受注は難しい状況となっている。今後は次年度繰越案件での工事量確保と、人手不足を踏まえた採算性重視の選別受注に注力することになる。
		通信業（営業担当）	・今後に控えている案件の規模、件数から、現状と同様の景気のやや良い状態が継続する。
		金融業（従業員）	・今後、好調な観光関連と公共投資がピークアウトし減速することが見込まれるものの、最低賃金の引上げなどにより、雇用所得環境の改善が続くことで、個人消費は底堅く推移することになる。そのため、道内景気は現状と変わらないまま推移する。
		司法書士	・総選挙の結果次第ではあるが、経済政策などが早急に策定、実施されることは少ないとみられるため、今後も景気に変化が起こることはない。
		コピーサービス業（従業員）	・業界によって景気の良さあしがはっきりとしているものの、全体的には今後もあまり変わらないまま推移する。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・建設需要が現状よりも増加するような環境ではないため、今後も景気は変わらない。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・すでに当社の繁忙期を迎えているため、今後の大きな伸びは期待できない。
		出版・印刷・同関連産業（従業員）	・総選挙になると、客の動きが鈍くなるため、今後についてはやや悪くなる。
		建設業（従業員）	・突然の総選挙の影響で、今後の公共建設工事の発注が遅滞することが懸念される。
		輸送業（支店長）	・今後については、冬を迎える時期であり、引き合いの動きもあまりみられないことから、現状よりも厳しくなる。
	x	-	-
雇用 関連  (北海道)		人材派遣会社（社員）	・有効求人倍率の推移をみても分かるとおり、求人ニーズは今後も堅調に推移する。企業の景況感もやや改善している。採用に至らない求人企業からは問い合わせが途絶えず、企業の業績が低迷するような傾向もみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・秋商戦で個人消費関連のアルバイト求人が増加することになる。前年よりも求人にも勢いがある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今後も公共事業を中心に、土木建築関係の仕事が見込まれることから、関連業界を中心に雇用環境がやや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・基幹産業である農業が好調に推移していることに加えて、前年の台風被害の復興工事が順調に発注されているため、今後についてはやや良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気のベクトルはやや上向きと見込まれるが、全業種的に人材不足が足を引っ張っている面があるため、今後も景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・アルバイト・パート求人の減少を正社員求人の増加で補っている状況が続いていたことから、正社員求人の動きが落ち着くと全体の数字が前年を下回る懸念があったが、ここにきてアルバイト・パート、正社員共に求人件数が前年の数字に近づいてきていることから、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・企業進出や設備拡充などに伴う大きな増員の動きはないが、製造分野の好調な受注状況を反映して、即戦力の確保や人材育成を念頭に置いた増員を計画する企業などがみられ、募集活動において具体的な動きが表れている。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が12か月連続で前年を下回っており、先行きに不透明感がある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・今後については、若干上向きのまま推移するものの、特段大きな変化まではないとみられる。
		職業安定所（職員）	・漁業不振が続いていることで、水産食料品製造業を主とする製造業に悪い影響が生じている。
	x	*	*

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東北)		-	-
		百貨店（売場主任）	・若干ではあるが、秋物に対する客の動きに好転の兆しが見えている。このまま冬に向けて気温が順調に推移すれば、例年以上の動きが期待できる。
		百貨店（営業担当）	・中心アイテムである衣料品が好調であり、冬物の時期まで続くともみている。また、お中元商戦に一定の成果があったことから、お歳暮商戦も引き続き良い結果になると見込んでいる。さらに、選挙がらみで消費税の話題が出ており、高額商材の駆け込み需要が始まることも期待している。
		スーパー（店長）	・3月にオープンした競合店の影響は徐々に薄れてきており、回復の傾向がみられている。
		コンビニ（エリア担当）	・8月の低温からそのまま秋になった状態ではあるが、今後例年並みの天候が続けば、売上も回復していくと見込んでいる。
		コンビニ（店長）	・9月が悪すぎたため、天候次第ではあるものの、これ以上は悪くならないとみている。
		衣料品専門店（店長）	・秋物の立ち上がり早いと販売機会も増える。これから先、客も迷わず秋物を購入するとみており期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車イベント効果とあわせて、東京モーターショー開催によるイメージアップ効果も期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・11月開催のモーターショーの効果に期待したい。
		住関連専門店（経営者）	・2～3か月先は受注製品の納品が始まるため、販売量、販売額共に、現在よりも50%程度上回るとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・現在の自社の傾向から、この先の景気にもかなり期待をしている。
		一般レストラン（経営者）	・今後は、芋煮会や秋の行楽、忘年会などにより人の動きが少なからずあるとみている。景気は少しずつ良くなっていくのではないかと。
		都市型ホテル（スタッフ）	・11月までは大きな大会などが予定されている。また、12月は忘年会シーズンでもあるため、ある程度の売上を見込んでいる。
		旅行代理店（店長）	・海外旅行の予約申込が鈍化している。しかし、キャンセル分が国内旅行へシフトしており、旅行シーズンとも重なり好調である。
		通信会社（営業担当）	・東京オリンピック関連の公共事業の仕事が増えるため、景気が上向くとみている。また、インフラ関係の仕事と雇用が増えることで、消費も伸びるのではないかと。
		住宅販売会社（経営者）	・賃貸集合住宅の受注が来春まで予定されている。
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・リフォーム工事の問い合わせが増加し、成約につながっているため、売上も伸びる見込みである。	
	商店街（代表者）	・景気が良くなることを期待したいが、この8か月間の流れをみても今後も横ばいで推移するとみている。また、好天が続いて気温も秋としては暖かいため、秋物や初冬～冬物商材の動きが停滞することを懸念している。	
	商店街（代表者）	・衆議院選挙が行われることで、消費税増税や高齢化社会に対応した景気対策などが期待されるが、まだ不安定であるためどちらともいえない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・10月はダブル選挙となっており、この結果次第では世の中に大きな変動を及ぼし、消費者心理が乱れて景気にも影響が出るとみている。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・今年に入ってから売上が前年を下回ったのは8月だけである。ほかの月は105～110%の推移であり、今のところ不安要素はない。そのため、客が来てくれれば現状維持で推移するとみている。
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・天候不順や衆議院選挙の影響により、商品の動きが鈍るとみている。
		百貨店(総務担当)	・客から冬のボーナスはそれほど上がらないと聞いているため、この先の景気もあまり変わらないのではないかとみている。
		百貨店(企画担当)	・前年比はほぼ横ばいで推移しており、今後も大きな変動要因は見当たらない。
		百貨店(営業担当)	・地方では個人所得の向上が期待できず、消費を喚起する起爆剤も見当たらないため、しばらくは現状維持が続くのではないかとみている。
		百貨店(買付担当)	・景気が上向きになるような要因が見当たらない。
		百貨店(売場担当)	・様々な環境で買物ができる時代において、実店舗である百貨店の強みはあまりない。このようなトレンドのなか、売上を伸ばして維持することは非常に難しい。
		百貨店(経営者)	・高額商材の好調が持続するかは不透明であるものの、経済環境としては悪くはないため、営業施策次第ではないかとみている。冬に向けてのアイテムは前年が苦戦しただけに買換え需要に期待している。
		スーパー(経営者)	・衆議院選挙が個人消費に与える影響は少ないとみている。ただし、人口減少のなかでコモディティ化した商品の売上は飽和状態であり、ヒット商品もない。このような状態から消費を活性化させるには工夫が必要である。
		スーパー(経営者)	・選挙の結果が出るまでは大きな消費の変化はないのではないかとみている。ただし、選挙期間中の消費はやや低調に推移する見込みである。
		スーパー(店長)	・来客数の減少が続いている。競合店対策もそれなりにやっているものの、成果は出ていないようで、厳しい状況はこれから先も続くとみている。
		スーパー(店長)	・競合店の出店予定があるため、競争激化による来客数の減少が見込まれる。
		スーパー(総務担当)	・北朝鮮問題は予断を許さないものの、衆議院選挙により、景気は横ばいもしくは若干の上昇が見込まれる。
		スーパー(営業担当)	・来客数が伸び悩んでいることや、必要以上の買物をしないという客の節約志向が見受けられ、現状維持で推移するとみている。
		コンビニ(経営者)	・各項目の数字は全て前年を上回っているものの、7月との比較では下回っている。ただし、客単価が低下しつつも買上点数の減少はないという状況のため、客の財布のひもの状態は現状維持で推移していくとみている。この先景気が落ち込んでいくことはないかとみている。
		コンビニ(経営者)	・この先年末に向かうが、現在の経済状況からみて、低調のまま推移するとみている。
		コンビニ(エリア担当)	・この先の景気も変わらないとみているものの、これは上昇の兆しが少ないという意味である。むしろ下がる要因しかみえない。
		コンビニ(エリア担当)	・天候を含めた外的要因次第の面もあるが、来客数の伸長は期待できない。
		衣料品専門店(経営者)	・婦人衣料品の動きは、他店の状況もあまり良くない様子である。この状況はしばらく続くとみている。
		衣料品専門店(経営者)	・選挙の月は業績が減少する傾向があるため、10月の売上を心配している。
		衣料品専門店(経営者)	・年末には冬物の準備も終わり来客数も減ってしまう。当然ながら注文もほとんどない。
		衣料品専門店(店長)	・消費者の購買意欲は気温と連動して上下しているため、年間を通して例年並みになるとみている。
		衣料品専門店(店長)	・消費者に景気が回復しているという実感がない限り、売上は天候に左右されることが多い。そのため、3か月スパンでみる限り大きくは変わらないとみている。
		衣料品専門店(総務担当)	・今後は秋冬物が主体の売場構成に切り替わるが、客の購買動向をみていると、景気が上向きようにはみえない。
		家電量販店(店長)	・年々来客数が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・この先有機ELテレビなどの買換え需要により、売上はほぼ前年並みかやや上回る状況になるのではないかとみている。
		家電量販店（従業員）	・家電業界では、売上がけん引する商品が見当たらない。オリンピック前のテレビ需要が始まって4K、8Kテレビがもう少し低価格となり、見たくなるような面白いテレビ番組が増えれば売上も伸びるとみているが、今はまだその状況が整っていない。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の動きも良くなってきているため、今後に期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・今までであれば買換えを検討する年数の車でも、客はなかなか購入に踏み切らない。
		乗用車販売店（従業員）	・ここ数か月は来客数の動きに変化がないため、今後も同様に推移するとみている。
		住関連専門店（経営者）	・比較的安価な小型商品にシフトしていくとしても、既にその分野は異業種やネット販売が手がけている。このままでは先の見通しがつかない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これから衆議院選挙になるが、年末には落ち着くとみている。むしろ、国際情勢が今後の景気に与える影響を心配している。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・景気が良くなるような要素は天候くらいしかない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・この先の気候の傾向が不明であるが、暖冬となれば防寒着の動きは鈍くなるとみている。ただし、労働環境が厳しいほど個人で工夫する傾向にあるため、インナーなどの商品は少し期待できそうである。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・数年前より、石油系燃料から電気への切替えが定着しており、全体的に販売量は減少傾向が続いている。しかし、前年から暖房用灯油の販売元である薪炭系の燃料店の廃業が続いているため、結果として販売量は横ばいとなっている。過疎地では灯油販売をする店が減少してきているため、電気暖房への乗換えが一層進むとみている。
		高級レストラン（支配人）	・今後の予約状況は前年と比較してほぼ横ばいである。客単価も若干の値上がりはあるものの、まだまだ楽観視ができない状況であるため、どちらともいえない。
		高級レストラン（支配人）	・現在の状況は落ち着いており、この先の予約状況からも、現状維持で推移するとみている。
		一般レストラン（経営者）	・衆議院選挙があるが、今の政権が変わるとは考えにくいいため、景気も変わらないとみている。
		一般レストラン（経営者）	・現況が改善するような要因が見当たらないため、現在の状況が続くとみている。人手不足も深刻化しつつあり、来客数が減少している今でも厳しい現状では、来客数が改善しても売上につなげることは難しい。この先の飲食業界全体の経営は非常に厳しいものになると危惧している。
		一般レストラン（経営者）	・夏と秋の境目でイベントがあまりない。飲食業としては、9月末～10月の芋煮会シーズンに期待するしかない。
		スナック（経営者）	・11月中旬頃からは忘年会シーズンで団体客の動きが見込めるものの、それまでは明るい話題に乏しく、状況的には厳しさが続くとみている。
		観光型ホテル（経営者）	・この先は、秋の観光シーズンや忘年会など忙しくなる時期に入るが、先々の予約状況を見ると今月並みに推移するとみている。
		観光型旅館（経営者）	・北朝鮮問題や忘れかけていた消費税増税など、景気がマイナスになるようなニュースばかりである。景気の動きに安定感がなく、上向き要因も見当たらないため、例年並みで推移するとみている。
		旅行代理店（経営者）	・10月は衆議院選挙が予定されているため、旅行需要が多少落ち込むとみている。ただし、それほど大きなものではなく、現状維持で推移する見込みである。また、この先北朝鮮問題の動向と影響を懸念している。
		通信会社（営業担当）	・景気が大きく変化するような材料に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・年末に向けて4Kテレビの購買意欲が若干増えるともみているものの、コンテンツにインパクトがなく、大きく伸びるまでには至らない。テレビ、インターネットサービスを比較すると、個人でのWi-Fi導入需要がまだ見込まれるため、加入者は微増のまま推移するものとみている。
		通信会社（営業担当）	・取引先からも良い話を聞かない。景気が良くなっている実感がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・客単価が上がらないため、状況は変わらないとみている。
		観光名所（職員）	・来客数が増えているものの、客の購買意欲は今一つである。このまま変わらないのではないかと。
		遊園地（経営者）	・秋のイベントを展開して下支えをする予定であるが、衆議院選挙後の動向や、北朝鮮情勢の影響を懸念している。
		競艇場（職員）	・現状において来客数増加策は成功していない。来客数が増えない限り売上増加は見込めない状況にあるため、善後策を検討する必要があるものの、手詰まり感がある。
		美容室（経営者）	・来客数の減少率は横ばいで推移しているため、この先も急激な変化はないとみている。
		美容室（経営者）	・人口が増えることはないため、利用客が少なくなることは当然である。周囲は皆競争相手である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・この先特に大きな懸念材料はない。
		商店街（代表者）	・選挙期間に入ることで、人の動きが鈍くなり、そのことが商店街全体に影響することを危惧している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・予期していなかった衆議院選挙が来月に実施されることとなり、ますます人が動かなくなるとみている。政府は景気を良くしようと本当に考えているのか疑問である。
		スーパー（店長）	・3か月前から売上の前年比が下降傾向にある。今月は横ばいで推移しているものの、上向きとまではいかないため、今後は厳しくなるとみている。
		スーパー（営業担当）	・商圈内では今後もスーパー、ドラッグストア、コンビニなどの出店が予定されており、異業種も入り乱れての競争はますます厳しくなる見込みである。今後、来客数の回復が望めないなか、既存店が前年の売上を上回ることは難しいとみている。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げにより経費がかさむため、今後は厳しくなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・最低賃金改定により、小売業の収益性がさらに悪化する。また、賃金が上昇しても客の購買動向には変化がないとみている。
		コンビニ（店長）	・冬に向けて来客数、売上が減少し、除雪費や光熱費などの出費が多くなるため経営的にも厳しくなる。さらに10月の最低賃金の引上げもあり、利益を出すのが難しくなる。
		衣料品専門店（経営者）	・冬物衣料の販売も落ち着く時期になる。
		乗用車販売店（経営者）	・衆議院選挙による政治の停滞を危惧している。
		乗用車販売店（店長）	・例年10～12月は販売量が落ち込む時期となる。しかし、今年は新型車効果などにより、落ち込み幅はある程度抑えられるとみている。
		住関連専門店（経営者）	・消費者の財布のひもが一段と固くなっている。景気回復の兆しがみられないため、厳しい状況が続くとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油コストの上昇に伴い販売価格の値上げが実施されるため、節約志向が更に進み、これまで以上に販売量の減少が見込まれる。
		高級レストラン（経営者）	・先行きの景気が良くなるような要素は見当たらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・10月の衆議院選挙による影響を心配している。
		観光型旅館（スタッフ）	・衆議院選挙の年は、社員旅行の申込が極端に少なくなる傾向にある。また、早期予約されていた社員旅行が取消しになる事も少なくない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年末に向けて、毎年恒例で行われるような宴会の予約は入っているものの、前年並みとまではいえない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月に衆議院選挙があるため、来客数が減少するとみている。
		旅行代理店（従業員）	・地元空港にLCCが就航し、インバウンドも上昇傾向にあるなど、良い傾向がみられている。反面、海外情勢の不安要素は増加しており、問題が深刻化することで、今月よりも悪化するとみている。
	×	商店街（代表者）	・ビジネス関係の予約状況が非常に低調である。このことから、一般客に関しても、来客数はどんどん先細りとなるのではないかと。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔書籍〕 (経営者)	・これから衆議院選挙が始まるが、国に対する消費者の期待感 は希薄となっている。そのため、消費者の買い控えはしば らく続き、厳しさが増すとみている。
	×	スーパー(経営者)	・新米が不作で高値となりそうである。また、今年は露地物 の野菜が高値で推移しているため、先行きの景気に期待がで きない。
	×	一般レストラン(経営 者)	・一度、目に見えて景気が下がると、元に戻るまでに3か月 程度はかかる。長年飲食店をやっているが、今回のように根 本的に景気が安定してきた矢先に政治が不安定になると、非 常に痛手となる。
	×	都市型ホテル(スタッ フ)	・先行きの予約状況は大変鈍く、ひと月ごとに前年比のマイ ナス幅が広がっている。また、今回の衆議院選挙において、 過去の経験からも人の流れが非常に悪くなることを見込ま れるため、更に状況が悪化することを危惧している。
	×	旅行代理店(店長)	・市長選挙や衆議院選挙の影響は避けられないとみている。
企業 動向 関連  (東北)		建設業(従業員)	・竣工時期から逆算すると、今年度が復興予算による大型公 共工事発注の事実上の最終年度に該当する。そのため、未発 注工事の駆け込み的な発注と、それに伴う受注者確定が、件 数、金額共に、年度末に向けて大きく増加すると見込んでい る。
		食料品製造業(総務担 当)	・秋冬物の新商品の導入や年末商戦を迎えて、購買意欲の増 加が期待できる。
		出版・印刷・同関連産 業(経営者)	・年末に向けて良くなることを期待したい。
		金属製品製造業(経営 者)	・新しい案件が出てくる頻度が高くなっている。
		電気機械器具製造業 (企画担当)	・大口価格が下がる兆しがなく、加えてコスト改善した製品 に今後切り替わっていくため、業績は更に上昇する見通しで ある。
		輸送業(経営者)	・12月に完成予定の新倉庫には、既に保管貨物の予約が入っ ているため、売上の増加を見込んでいる。
		広告業協会(役員)	・10月以降は様々なスポーツイベントが開催されるため、景 気が良くなることを期待している。
		広告代理店(経営者) 経営コンサルタント	・設立50周年の企業が多く、記念誌の受注を見込んでいる。 ・天候が回復しているため、秋の観光需要の活性化に期待し ている。
		食料品製造業(経営 者)	・大きなイベントの有無で売上に波が出るため、イベントが ない月はなかなか厳しい。
		食料品製造業(経営 者)	・選挙の影響で、旅行者、出張者などの人の動きが鈍くなる ことを懸念している。
		木材木製品製造業(経 営者)	・しばらくは現状維持が続くとみている。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・海外受注の回復が見込めないことに加えて、為替の動向も 不透明である。ただし、国内はおおむね堅調に推移している ため、全体としてのマイナス幅は小さいとみている。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・製造業の人手不足は相変わらずである。受注があるため短 期的には良くても、長期的にみた場合、次の人材を確保しな ければならないが、どこの企業経営者も苦労している。農業 法人と話す機会があったが、こちらの人手不足も深刻のよう である。
		建設業(経営者)	・当地域では、第4四半期の受注量はあまり期待できないた め、第3四半期で受注をできるだけ増やしていきたい。民間 工事受注に期待をしている。
		建設業(企画担当)	・工事受注額は当初の見込みどおりであるため、2~3か月 は現状のままで推移するとみている。
		通信業(営業担当)	・今後の競争入札においては、落札するかどうかについて、 利益が出せるかなどをある程度見極め、割り切った判断で対 応していく必要がある。
	通信業(営業担当)	・政治の影響から、景気の改善は難しい。	
	金融業(営業担当)	・特に大きな変化要因はない。	
	金融業(広報担当)	・米の作柄は県全体で平年並みである。また、りんごは台風 などの被害が想定よりも軽微であったものの、前年に引き続 き市場価格が高値予想となっていることから、販売量への悪 影響が懸念されている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・建設関係は全体的に利益が増加しており、サービス業、小売業の利益減少を補うような状態が当面継続するとみている。そのため、全体的にはやや好調な景気が続く見込みである。
		コピーサービス業（従業員）	・前年並みの金額を維持するのが精一杯であり、今後についても大きな案件はない。ただし、近いうちに展示会を開催する予定のため、そこでの商談に期待している。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・今月の天候不順の状況から、先行きの需要は伸びないのではないかとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・この先は本格的な観光シーズンに突入する。県外からの旅行者が増えることで、今月に持ち直した景況感が継続するとみている。また、衆議院選挙が10月となる予定のため、年末の需要期に影響を受けることはないかとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・原子力発電所の廃炉の見通しが先延ばしとなったことで、1次産業や復興事業などに影響が出ている。身の回りの景気感は決して良くない。
		金属工業協同組合（職員）	・良くも悪くもない状況が続いている。ただし、一部ではこれまでの短納期厳守から、若干の余白が許されるような受注環境になりつつある。
		農林水産業（従業者）	・8月の天候不順により、農家の収入が前年よりも2割程度落ち込んでいることから、今後が心配である。
		農林水産業（従業者）	・今後収穫される作物は、台風や雨の影響を受けており、収穫量に期待が持てない。
		食料品製造業（営業担当）	・カットされる商品が更に増える見込みのため、一層厳しい状況になるとみている。
		繊維工業（経営者）	・販売店の売上が悪い。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・マイナス金利の影響で金融機関の経費削減が一層進んでおり、印刷物や広告支出が大きく落ち込んでいる。そのため回りまわって全体に波及し、景気が悪くなっていくとみている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・震災復興需要の減少や民間需要の減少に加えて、この先大型物件の発生も見当たらない。
		司法書士	・取引先からは、営業成績が厳しいという話をよく聞いている。
	x	*	*
雇用関連		-	-
(東北)		人材派遣会社（社員）	・赤字であった大型受託事業が9月で終了するため、低次元ながら現状よりは良くなる見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・慢性的な人手不足は今後も継続していく見込みである。そのため、人材サービスの需要は高止まりしていくとみている。
		民間職業紹介機関（職員）	・主に製造業の求人数が増加傾向にある。ただし、各企業とも人材確保できるまでに至っておらず、求職者が不足する状況は、今後も継続するとみている。
		人材派遣会社（社員）	・相変わらず地元企業の採用意欲は高い。大学3年生へのインターンシップや、新卒が採れなくても中途採用で補うような動きが活発であり、このような状態はしばらく続くともみている。
		人材派遣会社（社員）	・求職者と求人のミスマッチは、今後も続くともみている。
		人材派遣会社（社員）	・この先も、採用難易度の高い状態が改善される見込みがない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人関連の新企画を実施したが、数多くの企業に賛同された。どの企業も人材確保に苦労している様子がうかがえる。
		職業安定所（職員）	・求人条件の改善がないまま、人手不足による求人が増加する傾向は今後も続くともみている。
		職業安定所（職員）	・今年の5月以降、製造業の新規求人数の前年同月比は増加で推移している。自動車部品関連、電子部品デバイス、金属製品製造、輸送用機械器具製造において増加幅が大きい。また、事業所への訪問や窓口においても人手不足感がうかがえるため、この状況は当面続くともみている。
		職業安定所（職員）	・求人は続いているものの、賃金上昇が小幅のため、人手不足の状況はしばらく続くともみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・春にカツオがとれず、現在もサンマが全く捕れない状況が続いているなか、戻りカツオにも不安が残り、水産加工関係の雇用情勢を心配している。求人の更新についても、以前はあった大量求人も少なくなってきた状況はずっと続いているため、今後も大きく変わらないとみている。
		職業安定所（職員）	・公共工事や民間工事の増加に伴い、建設業、交通誘導などに需要があるものの、希望者が少なく人手不足が深刻化している。そのため、製造業種では求人募集と並行して設備投資による省力化を図る動きもみられている。
		職業安定所（職員）	・パートを含めた求人倍率は、6月1.28倍、7月1.38倍、8月1.44倍と上昇しているものの、新規求人数の伸び率は前年同月比で1けた台にとどまっており、この先も大幅な改善は見込めない。
		学校就職担当者	・年度当初の採用計画からみて、今後の採用状況は微増状態であり、大きな変化はない。
		人材派遣会社（社員）	・派遣登録者数の低下に歯止めがきかないため、見通しは暗い。
		アウトソーシング企業（社員）	・地方自治体は来年度に向けて、予算の策定準備に入っているが、前年並みもしくは減少になるとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・選挙や北朝鮮問題など、情勢が不安定な状況はしばらく続くとみている。また、選挙の結果によらず懸念されるのは、今後ますます中央と地方のギャップが広がることである。
		職業安定所（職員）	・老人保健福祉の事業所、時計工場でのリストラの影響が懸念される。
	x	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (北関東)		コンビニ（経営者）	・今後は年末にかけて、イベントがいろいろあるため、売上は良くなる。
		コンビニ（経営者）	・年末年始のイベントや予約商材が多くなり、その獲得数も増えていく予測のため、良くなる。
		都市型ホテル（営業）	・毎月1回の全社員営業や日常の営業努力もあり、多少は上向きになってきている。今後も営業活動に力を入れ売上増を図る。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・跡継ぎのいない老人の葬式や墓じまい、仏壇の処分、檀家抜けなど、具体的な相談が増えている。
		百貨店（店長）	・新たなイベントを企画しており、やや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・地元製造業は比較的順調であり、自動車購入の商談数は増えている。
		一般レストラン（経営者）	・9月で終了するデスティネーションキャンペーン関連の客は当店には来なかった。
		スナック（経営者）	・衆議院選挙が多少の不安要素だが、特に悪くはないのではないかと。
		観光型ホテル（支配人）	・紅葉シーズンを迎え、今夏の悪天候で旅行を控えていた観光客の、国内旅行需要に期待している。
		通信会社（経営者）	・県知事も代わり、国政自体が変わろうとしている。そこに期待する以外に方法はない。
		通信会社（総務担当）	・一番人気の商品は供給が安定せず、売上に貢献しない恐れがあるものの、ほかの新商品も出そろい、多くの客のニーズに広くこたえられる時期である。
		テーマパーク（職員）	・新駅開業以降、来園者数の増加だけでなく、飲食物販の客単価も上昇している。
		遊園地（職員）	・今後も夏季にオープンした新規施設やイベント実施等により、引き続き多くの来園客を期待する。
		ゴルフ場（総務担当）	・10月からトップシーズンとなり、来場予約は順調で、前年を上回る状況である。この先は上向いていくと予想する。
		設計事務所（所長）	・衆議院の解散総選挙により自民党が勝てば、消費税10%への増税前の駆け込み需要が期待できる。
	商店街（代表者）	・客の節約志向が一層進むなかで、運動会や行楽に出かける機会が多くなる季節のため、好天の日が続くことを期待している。	
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・現状、政治情勢が不安定で、保守が主流になってくれないと、景気の浮揚は考えられない。また最近、家庭の必需品の値上げも今後に関係するが、年末に向かっては変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・衆議院選挙絡みで消費税再増税が話題となっているが、必要な物を必要な時に購入するケースが多いなか、再増税前に駆け込み消費に走るのかは疑問である。消費者が消費に動かないと先は見えてこない。
		一般小売店〔乳業〕 (経営者)	・地方の末端では消費意欲が改善する要素はない。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・今の経済状況では、今後良くなる見通しはない。今の政治や会社が変わっていかないことには、末端の消費者の購買が上がることはない。
		百貨店(営業担当)	・株価も上がってはいるが、一般的に景気が良くなった実感はあまりない。消費全体では、さほど変化はない。
		百貨店(営業担当)	・個々の商品群では好調に推移しているものも散見され、全部が悪いという状況は脱したようである。しかしながら、店全体の復調は衣料品の売上次第のところが大きく、2~3か月先も変わらない。
		百貨店(店長)	・依然として消費に力強さはみえない。ただし、食品の売上は好調である。また、百貨店では客の高齢化が進んでいることも売上低迷の原因だが、年金等、先の見えない状況で、消費行動も慎重にならざるを得ないのかもしれない。
		スーパー(経営者)	・客の節約志向が依然として強い。
		スーパー(総務担当)	・来客数、売上共に全業種で前年より悪い状況が続いている。この先も売上の増える与件もなく、来客数減の悪い状態が続く。
		スーパー(商品部担当)	・現状、天候不順の影響が農作物に出ており、今後の売上、販促に影響が出ると予想する。ただし、全体的には単価は上昇傾向にあり、売り方次第では変化が出そうである。イベントや販促も人手不足により手間がかかれず、客単価上昇は見込めない。
		コンビニ(経営者)	・給料日の多い25日以降は、客足、客単価共に戻り、売上は前年比を超えている。ただし、全体的に客の給料が伸びている様子はない。
		コンビニ(店長)	・思った以上に天候に恵まれ、順調に推移した今月で、特に、下旬の動きが良かった。3か月後も良好な年末商戦であることを期待している。
		コンビニ(店長)	・同業他社の出店の影響は、今月と比べると特段変わらない。
		乗用車販売店(販売担当)	・展示会でさまざまなイベントをやっても、付加価値のあるプレゼントをしても、全く集客ができない。これから良くなる要素がない。
		乗用車販売店(販売担当)	・10~12月を控えており、例年なら尻上がりで良くなる。ただし、今年は衆議院選挙があるので、選挙の年はどうしても選挙前後の売行きが鈍るので、例外なく来月は良くないのではないかと。現状の売上程度は維持できるとみている。
		自動車備品販売店(経営者)	・労基署の労働時間、残業時間の監査が、小型飲食店にも入り、ランチの営業を中止しているところもある。近隣の大型ショッピングセンターの開業で、時給が400円ほど上がり、中小小売店のパート、アルバイトが転職してしまい、営業に支障をきたしている店も増えている。また、通信販売で購入する客も多くなっている。
		住関連専門店(店長)	・直近の来客数が、ほぼ前年どおりの推移で変わらない。
		住関連専門店(仕入担当)	・衆議院選挙も予定されるなか、不安定要素が増し、消費マインドは下がったまま、当分変わらない。
		その他専門店〔燃料〕 (従業員)	・受注状況のみを限り、販売量は現在のままで推移する。
		一般レストラン(経営者)	・どの程度続くのか未知数ではあるが、夏場を過ぎても県外客の動きに衰えはみえない。
		一般レストラン(経営者)	・政権が不安定で、地方創生政策も全く進んでいないため、地方の活性化は、いまだ遅れている。
		一般レストラン(経営者)	・秋は屋外でのイベントが多数予定されており、天候次第で人出が大きく左右される。好天となれば景気にも良い影響が出ると期待している。
		スナック(経営者)	・これ以上悪くならないでほしいという意味で変わらないとしている。
		観光型旅館(経営者)	・忘年会も動きが少なく、秋から冬にかけて現在のやや悪い状態で推移するのではないかと。
		都市型ホテル(経営者)	・前年実績との比較分析をした結果、変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月の大規模商業施設開業や、近隣のアリーナ施設関連の集客等で、前年比、予算比共に達成が見込まれている。年末の忘年会関連の数字が若干弱いものの、年明けは持ち直している。変わらないというよりは、良い状況が続いている。
		都市型ホテル（副支配人）	・10～11月は団体予約を多く受注できており、しばらくは安定した売上が見込めそうである。
		旅行代理店（経営者）	・宿泊を伴う忘新年会の申込が、前年と変わらない。
		旅行代理店（所長）	・このまま推移すれば大きく良くなるとはいえないものの、一定程度は良い結果が期待されていた。しかし、衆議院選挙の関係で見通しがきかなくなっている。
		タクシー運転手	・地域の間人だけでは、利用客が増える要素はない。
		タクシー運転手	・衆議院選挙もあり、今後どうなるか不明である。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くないので、この先も変わらない。
		通信会社（経営者）	・地方では、高齢者の占める割合が多いため、景気が急激に上向くことはまずありえない。また、個々の消費意欲が緩やかに上向いてきたとしても、人口減、高齢化による顧客減少で帳消しである。その上、都市圏から大手企業が地方にどんどん進出してくる状況で、今後景気が良くなることはない。危惧すべき点は、人口減少がさらに進み、商圏として魅力がなくなれば、大手はちゅうちょなく撤退し、より一層住みにくい街になってしまうことである。既に、その現象は見受けられ、スーパーやデパートの撤退が著しい。
		通信会社（経営者）	・テレビ番組の魅力が低下しつつあり、テレビ離れがさらに進んでいきそうである。
		通信会社（経営者）	・経済財政担当相が記者会見で、戦後2位の「いざなぎ景気」を超えた可能性が高いとの見通しを明らかにしたが、地方ではまだ実感がない。
		ゴルフ場（経営者）	・秋のゴルフシーズンに入り、全ての曜日で平均的に予約が入っている。衆議院選挙への関心が高まり、来場予約にどう影響するか状況をみている。
		美容室（経営者）	・この先の秋の旅行シーズンを前に、美容院の予約が少しずつ入っており、美容にお金をかける人が徐々に増えている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・地域には大企業もあるが、街中に景気回復感がまるでない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・今後の予約状況は、当社並びにテナント各社の動きも、来客数、予約は共に横ばいである。単価等も、ほぼ横ばいで、相対的に売上、販売量も横ばいで、変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・世界情勢の不安定さから、将来が見通せず、しばらくは変わらない。
		設計事務所（経営者）	・これから計画される案件も多く、間に合っていない。
		設計事務所（所長）	・特定の1社の特殊事情ではなく、総体的に安値入札があるということは、すぐ景気回復するようにはいかない。
		住宅販売会社（従業員）	・レジャーの多様化などにより、若年層の別荘離れが進んでいる。
		住宅販売会社（経営者）	・衆議院選挙で消費税増税も争点になっていないため、起爆剤としての材料に乏しい。世情は選挙に対して冷ややかと予想する。中小零細企業にとって、ますます自助努力が必要となる。
		商店街（代表者）	・昔はスポーツ用品店は冬になれば冬の商材が売れたが、今は、冬の商材を扱えば赤字になるので、取り扱わない。半年は、売上のないことを覚悟している。
		商店街（代表者）	・旬の農作物の出来が良くないため、年末の贈答需要に向けて不安である。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・観光客は結構来ているが、買物をするのはなかなかない。当店は地元向けの商店なので、観光客は買わない。来月も良くなる要素はあまりない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・衆議院選挙で、また消費が落ち込むのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・中間層の購買意欲は依然低いままであり、当分の間は継続すると予想される。また、競合店のオープンが控えており、懸念材料となっている。
		スーパー（経営者）	・売上が前年を割っている。
		スーパー（企画担当）	・首相が消費税10%への増税を公言したので、今後消費マインドは冷え込むため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（副店長）	・求人倍率などからは景気が上向きのようなのだが、実際の売上や利益は依然として、前年割れが続いている。来店客も日々の生活で景気が良くなったと実感するまでには、至らないようである。また、3か月先は冬となるが、当地は雪国で、いろいろと出費がかさむため、財布のひもが固くなりそうである。
		コンビニ（経営者）	・周辺の景気状況から、やや悪くなる。
		衣料品専門店（統括）	・お祭りシーズンが終わるため、販売量は減少していく。しかし、暮れに向かうということで、年末、お正月に向かっての消費も多少あるのではないかと期待している。
		家電量販店（店長）	・消費マインドが弱い。話題性のある高付加価値商材が出現しないと厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・ここ数年、年末商戦が盛り上がり欠けているため、やや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・政治、経済、国際などの諸問題により、なかなか希望を持ってない。これからの日本は大丈夫なのか心配である。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りでは人口が減っており、企業誘致や人の動きなどもあまりない。秋は低下傾向だが、従来と同じ仕事をしていても下降気味なので、自社で努力をして、なんとか巻き返し、現状維持に努めていくしかない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来月、商圏内の駅前に大型商業施設が開業する。年内一杯、来客数は影響を受けそうである。
		一般レストラン（経営者）	・地元での選挙や衆議院選挙など、選挙がある時は決まって景気は悪くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・10月に市長選挙を控え、更に国政選挙も重なると消費が落ち込む恐れがある。周囲の雰囲気は儂約ムードになりやすい。
		都市型ホテル（営業担当）	・景気が良くなる要素が見受けられないところが一番大きい。例年、年末に向かって稼働が上がってくるが、現状は全体的に落ちているので、例年と比較すると悪いのではないかと。
		旅行代理店（副支店長）	・台風や天候不順による農作物の収穫時期の遅れや被害により、今後の旅行低迷が懸念される。通常、収穫が終わり秋の旅行へと受注が増加してくる時期だが、客足が鈍く来客数も落ちてきている。また国政選挙と市長選が重なり、厳しい繁忙期となりそうである。
		タクシー（役員）	・ドライバーの確保が困難である。
		通信会社（局長）	・8月のお盆の帰省や9～10月のお祭りで、当地に人は戻ってきているが、定住しているわけではないので、悪くなる。
		ゴルフ場（経営者）	・人口動態や諸外国の攻勢をみても、良くなるという期待を持つことはできない。
		競輪場（職員）	・今回開催したレースの売上が、台風の影響もあるかもしれないものの、今までの最低記録を塗り替えたためである。
	x	*	*
企業 動向 関連  (北関東)		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・10～11月と太陽光発電施設が増設になるため、良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・年末は販促活動が活発になるので、良くなる。
		化学工業（経営者）	・受注量の上積み期待できる引き合いが数件あり、荷動きが少し良くなると予想する。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・見積りや問い合わせが、出てきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・新規の仕事が立ち上がるとともに、他社で処理し切れない仕事の引き合いもあり、しばらくは高負荷な状況で推移する見込みである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・毎年10～12月に向かって、受注量は相当増えてくる。今まで一般的に低調だった取引先も10～12月には受注を増やしてくるので、前年とは雲泥の差で当社は伸びている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・北米向けの輸出、販売が増えている。
		建設業（開発担当）	・今期発注は前年比20%増と安定している。当社も前年比10%増の受注で一安心である。ただし、建設業は10年以上続いた不況業種で、経営は疲弊している。さらに公共工事発注が予算の10%減のため、利益計上の厳しい状況は続いている。今後は、発注者が予算額で発注してほしい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・秋の本格的な行楽シーズンに向けて、若干ではあるが、家計にも余裕が出てきており、一定の季節需要が見込める。しかし、企業への投資は、個人消費の動向によるのには限界があり、政策的な刺激策が求められる。
		食料品製造業（営業統括）	・国内政治や世界情勢が不安定で、何が起こるか分からず、先の見通しが立たない。どちらに向かうかの判断が大変難しい状況である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・初めての試みで、地元の工業大学のイベントに出展する。独自技術をPRすることで、多少でも受注につながることを期待している。
		金属製品製造業（経営者）	・材料代が上がって、じわじわと経費も増加しており、困っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新規取引先からの受注が出来たものの、現状、売上見込みは、いまだ不鮮明である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・年内の生産量は確保されている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・この数か月は上がったたり下がったりで、取引先等の受注価格、販売価格等の動きもあまりないので、2～3か月先のことは分からない。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・しばらくはこのまま推移するとみている。
		輸送業（営業担当）	・冬に向かって、暖房家電のヒーター、電気カーペットや冬物の衣類、寝具などの物量が増える予定である。ただし、物量に対するドライバー不足もあり、車両確保のための協働会社等への支出により、コスト高となるため、利得的には厳しくなりそうである。
		金融業（調査担当）	・海外リスクが生じなければ、製造業は現状の景況感が続くともみている。
		金融業（経営企画担当）	・米国と北朝鮮の関係悪化、米国大統領の政策に対して、不確実性が出てきているため、米国を始めとする先進国の景気が減速する可能性がある。
		不動産業（管理担当）	・11月頃にスポットで建物設備の改修が決まりそうではあるものの、当社にはさほどの増収要因にならない。その上、定期業務の延期や見送りとの情報も入ってきているため、総体的には横ばいである。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・地方景気は改善が続くといった報道もあるが、小売関係者に話を聞くと、その多くは、実感が無いとのことである。消費はそこそこあるものの、余分な消費は抑えられている。
		司法書士	・実際に動き出せば良いところだが、良くなる要因が少し足りない。
		社会保険労務士	・人手不足が続いており、今のままでは景気は拡大しないとみている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、商談数から見ても、特段変化はみられない。
		金属製品製造業（経営者）	・11月から昇降機部品の生産台数が減る。トラック部品は現状、あまりに忙しく顧客の要求数量を納品できないため、11月の転注が決まっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・長期的な仕事が望めず、将来が見通せない。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・米国、北朝鮮情勢で、株価、為替の上下があるところに、衆議院選挙の影響で、ようやく回復基調にある市況が再び沈静化してしまう恐れがある。中国市場は相変わらず活況で、香港で行われた展示会は期待以上に売れている。
		建設業（総務担当）	・衆議院選挙になり、先行き不透明な部分もあり、やや悪くなる。
	通信業（経営者）	・今月、来月あたりで大口の仕事が終わりそうである。	
	×	食料品製造業（製造担当）	・会社の体力勝負となっているが、安売り競争で販売している状況は何も変わらず、適正価格で販売しようと努力はしない。地方は既に疲弊しており、売上はあっても利益の出ない状況である。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月のことだが資金繰りが大変である。
雇用 関連  (北関東)		職業安定所（職員）	・半導体関連製造の多くの企業から、2020年頃までは受注増の見込みとの話を聞いている。
		人材派遣会社（経営者）	・求人募集は沢山あるものの、求職者があまりいないため、苦戦している。以前よりは売上は良くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（経営者）	・原油価格の動向も気になる。灯油、ガソリン等が値上げすると、多少影響があるのではないかと。建設、建築、土木等は、公共事業もあり、順調とみている。製造業は追い込みもあるが、電子、電機、自動車関連等を含めて、一進一退ではないか。
		人材派遣会社（社員）	・取引先の宿泊施設関係では、稼働も順調に伸びており、前年と比べて稼働率が高いところが多い。また、求人募集をかけても、全く応募者からの反応がない。我々のような人材派遣業以外での採用が多くあるため、こちらの募集に回ってこないのではないかと。こうした状況はしばらく続くとみている。当地区全体でいうと入込数も比較的多く、しばらくは、このまま推移する。
		人材派遣会社（管理担当）	・生産計画に特段変化はなく、良い要素も悪い要素もない。
		人材派遣会社（営業担当）	・衆議院選挙と市長選挙があり、政治の行方も気になるころなので変わらない。
		人材派遣会社（支社長）	・電話をしても広告を打っても、全く反応がない。1か月続けても同じで、年末、年度末にしか人が動かず、派遣社員の長期安定思考が顕著になっている。これではいくら需要があっても、成り立たない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・中規模の飲食店や流通業などは、需要があっても従業員確保に苦労しており、常に求人募集をしている。人手不足が解消せず、依然として厳しい状況は続いている。
		職業安定所（職員）	・人手不足感が更に増し、採用が思うように進まなくなる。
	x	-	-

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		スーパー（経営者）	・店と従業員が良くなっている。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・政策的に射っている（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・これから年末に向かって外食に関するイベントが多い。
		一般レストラン（経営者）	・来月は行楽シーズンになるので、週末に客がかなり来店すると見込んでいる。予約数も大分入ってきているので、期待できそうである（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・例年、年末に向けて上り調子になる（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年、年末に向けて稼働は上がってくるので、10月は過去最高の稼働になると見込んでいる。
		観光名所（職員）	・2～3か月後は秋のトップシーズンを迎える。1年で最も多くの客が訪れるため、今月よりは良くなる（東京都）。
		ゴルフ場（企画担当）	・3か月先の予約状況が、すでに95%以上に達している。
		競輪場（職員）	・10月に年に1度のキャンペーンを行うため、上昇傾向にある。また、SNS等に投資した広告効果や当社のノウハウが徐々に結果に表れてきている。
		商店街（代表者）	・衆議院選挙の結果が景気を大きく左右する。与党が勝つにしても政権が交代するにしても、希望の持てる結果次第である。消去法で決まるのであれば、景気は厳しい（東京都）。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・新しい取引先の売上が好調なことと、前年にないイベントへの参加が決まっているため、売上が伸びるのではないかと。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・ダイアリーなどの季節商材もほぼ出そろい、これらの商材の売上が通常商材の売上に上乗せされていく（東京都）。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・年末～年度末にかけて様々な案件があり、現在仕込みをしているので、売上は比較的向上する。2～3か月後は年末に当たるため、売上は若干の増加にとどまるが、年度末には売上が増加する。年越し後は大分良くなるという期待がある。
	百貨店（売場主任）	・現在、既存ハウスカードホルダーの来店促進施策を細かく打っている。10月から効果が出てくると想定し、冬物商戦、クリスマス商戦をフックに、客を動員することで回復が見込めると考えている。特に、支持母体である近隣の中老年層は、「秋物」への投資は控えても、「寒さ」対策は惜しまない傾向がある。気温にも左右されるものの、冬物施策の連打で緩やかな回復を想定している。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（広報担当）	・気温に左右されるところもあるが、重衣料がこのまま好調に推移すれば、前年は振るわなかった衣料品全体に動きが出て、大きな流れになってくる可能性がある（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・世界情勢に不安定要素がありながらも、個人消費レベルでは、購買意欲の継続がみられる（東京都）。
		百貨店（計画管理担当）	・商圏内の同業他社が閉店した影響で、お歳暮ギフトやおせちの予約販売など、百貨店ならではの商材を買い求める客が流れてくるのが想定される（東京都）。
		百貨店（店長）	・日常客の食品から目的要素の高いアパレルまで、堅調に推移している。
		衣料品専門店（経営者）	・これから年末にかけて、例年どおりDMやカレンダー、B4チラシの配布等で売上指数の高い月である。今年は例年以上にコーディネート販売や雑貨を強化し、全力投球で前年を超えようと考えている。
		衣料品専門店（統括）	・前年の暖かい冬に比べ、今年は寒い冬になると予想されるので、やや良くなる。
		家電量販店（店長）	・衆議院選挙の結果や北朝鮮問題等のリスク要因が多く、先行きは不透明である（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	・政治、地政学上のリスクがなければ、景気判断は上向きと書いていい。時期的には新製品の投入が多いタイミングのため、インパクトのある商品が出ると市場をけん引できる（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・国際的なモーターショーが開催され、新型車が発表されたため、より一層の新車販売が見込める。
		乗用車販売店（総務担当）	・各社が新車攻勢を仕掛け、客の動きが活発化する。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界においては、消費税率引上げをにらんだ駆け込み需要が見込まれる。大型工事の多い年度末に向け、そのような動きが顕在化してくるものと予測している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先という11～12月になるが、今のところ予約が大分入っているため、今より景気が良くなる。ケータリングも、11月は学校の行事などがあるので、売上がかなり伸びるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・繁忙期に入ってくるため、やや良くなる（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・学校給食事業、メディカル事業が順調に伸び続けており、業績好調を維持している（東京都）。
		観光型旅館（スタッフ）	・都内は東京オリンピック予算がインバウンド事業に投入されており、観光業、宿泊業にとって追い風と考えている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・11～12月にかけて旅行需要の増加が期待できる。
		タクシー運転手	・10月はタクシー業界では多少良くなるので、期待している（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・受注件数の増加に期待している（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・法人向けソリューション案件は横ばいとみているが、個人向け携帯電話やその周辺機器の販売については、新商品の発売による買換え需要が高まるものとみている（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・サービス業は景気の影響が遅れて表れる。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・予約の動きを見ると、堅調からやや上向きに推移している。紛争が起きると観光客の動きが一気に悪くなるので、北朝鮮の動きが心配である（東京都）。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・若干ではあるが大型案件の話も出てきている。実需に結び付く可能性が高いものもあるので、良くなる（東京都）。
		商店街（代表者）	・最近、店の前を通行する来街者の数がやや減っている。ウィンドショッピングはするが、買物をする客が若干減っている。飲食店はそこそこ良いが、物販、特に衣料等については、今一つ伸びがない、あるいは減少傾向にある。
		商店街（代表者）	・地方議会選挙、首長選挙、衆議院選挙と続き、今後の状況次第では読めない部分大きい（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・メーカーから売れる新商品が出てきていない。4Kテレビを客に勧めるにしても、付加価値のないものを無理に売ることもできないため、売上に結び付かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・何とも言えないというのが正直なところである。衆議院選挙もあり、政権もどうなるか分からない。ただし、当社は物品販売だけではないので、インターネット販売ではできない部分でしのご。細かい頼まれごとは利益率が良いので、地道に頑張るつもりである。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・世界や国内の政治、経済情勢が不安定なため、特に大きく変わることはない(東京都)。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・小売流通の変革もあり、インターネット販売も強くなっているため、あまり変わらない。良くなる材料があまり見受けられない(東京都)。
		一般小売店〔傘〕(店長)	・国内外の情勢が不安定なため、様子見が多く購買意欲が湧きにくい。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・年末に向けて新規開拓など努力していくが、それほど注文が増えるとは今のところ考えにくいので、現状維持ができればいいのではないかと(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・今後、特に景気を押し上げるような新たな要因がないため、当面、客の動向は変わらない。
		百貨店(総務担当)	・食品を中心とした日用品の消費は順調であるものの、他の消費の慎重な動きは継続することが予想される。
		百貨店(総務担当)	・婦人衣料は回復基調にあるものの、継続して伸長する力強さは感じられない。
		百貨店(営業担当)	・8月から引き続き、化粧品、婦人服飾雑貨は、非常に良く動いている。高級ブティックも堅調な動きであるが、婦人、紳士服等の衣料品は相変わらず動きが悪い(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・悪い流れは変わらない。気温も安定しないので、秋物は非常に厳しい(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・年末商戦に向け、お歳暮ギフトの動向を懸念している。市場全体では縮小傾向のなか、どれだけ前年を確保できるかが鍵となる模様である。インパウンドについては、しばらくは好調を維持する。全体的に新規客は増加しているため、それに伴い売上は堅調に推移するとみている(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・気温が下がり、周辺の職域客の需要の更なる高まりが予想される(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・現状は回復傾向であるが弱い。北朝鮮問題や政治情勢など課題は多く、継続して回復が進む状況とはいえない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・国際情勢がいまだに不安定なことに加え、国内では衆議院選挙の動きもあり、先行きが不透明である(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・前年大きく落とした免税売上が回復してきたことにより、好調を維持しているが、それ以外に良くなる材料が見当たらない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・9月に入り、宝飾や家具、寝具等、比較的高額な商材の動きが良く、前年をクリアしており、景気は回復傾向にあると感じている。しかし、衆議院選挙の結果による消費者の消費に対する意識の変化も見必要があるため、現状では変わらない。
		百貨店(管理担当)	・朝鮮半島情勢及び今後の政権に対する不安感がある。
		百貨店(店長)	・来月の衆議院選挙の前後に売上が現状維持できれば、年内の見通しは明るいものと捉えている。
		百貨店(副店長)	・国際情勢や、国内でも政治の先行き等を不安視する雰囲気もあり、依然として不透明である。
		百貨店(営業企画担当)	・10月の衆議院選挙中及び選挙結果による影響は少なからずあるとみている。慎重に見極める必要がある(東京都)。
		スーパー(経営者)	・選挙によって変わらと思うが、小売業に景気が反映されるまでには半年以上かかるので、2~3か月先は変わらない(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・松竹梅あるいは更に上の特上クラスの価格帯、品質で品ぞろえをしているが、客の目がなかなか松や特上クラスには向かない。竹クラス、要は低価格商品や広告商品などにまだ集中しており、特上クラスや高付加価値商品にはなかなか手を伸ばしてくれない状況である(東京都)。
		スーパー(経営者)	・この先もやや悪い状態が継続する。その一番の理由は、競合店がどんどんできて、売上に影響していることである。また、前年は高かった野菜の相場が、今年は比較的安く推移しているため、売上がなかなか伸びないこともある。総じて今と変わらない状態がこのまま続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・売上の傾向は変わらず、乗客数はやや減少、客単価はやや上昇している。
		スーパー（店長）	・競合店が出店してから4か月以上が経つが、乗客数がなかなか回復しない。乗客数増加に向けて、店でもいろいろと施策を考えているが、なかなか思うようにいかない。3か月後も現状のまま推移していくのではないかと（東京都）。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、日々の買い回りで対応しているため、ワンストップショッピングが定着してくるまでしばらくは同様の状態が続いていく（東京都）。
		スーパー（店長）	・現状の売上の推移は多少改善に向かっているが、中身としては単価の下落に尽きる。乗客数の増加によって作られた売上なので、客単価、1品単価の下落は客数によって大きく変化し、売上につながると思われる。いずれにしろ、高単価商品の動きは思わしくない。
		スーパー（総務担当）	・購買の力強さがなかなか上がってこない。また、上がる物件も今のところない。頻度性の高い物に対する買い控えがますます強くなり、女性の化粧品などのように必要な物だけを購入し、頻度品、又は日用品の支出を抑える客の動向が今後も続く。
		スーパー（営業担当）	・海外は北朝鮮問題を含めていずれも不透明な状況である。国内は衆議院選挙によって大きく景気の状態が変わってくる（東京都）。
		スーパー（営業担当）	・当店においては、非食品カテゴリーの一部縮小が発生しており、現状ではカバーするのがなかなか難しくなっている。
		スーパー（販売促進担当）	・10月は衆議院選挙の影響で消費マインドが低下する。
		スーパー（仕入担当）	・鮮魚や青果物、果実の不安定な相場が続く、消費の低迷を招くことが懸念される。
		コンビニ（経営者）	・近隣の工事があと4年続くため、売上の利率等は上がる。
		コンビニ（経営者）	・ここしばらく良かったり悪かったりを繰り返している（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・値上げが続く関係で多少変化があると思うが、最終的には売上、乗客数共に現状維持となる。
		コンビニ（経営者）	・2か月先の11月までは徐々に乗客数が減り、売上も落ちていくが、12月は7～8月に続いて3番目に売上の多い月になる。インターネット通販など購買方法の多種多様化により、年賀状印刷やクリスマスケーキの販売等についているいる店との競合が激しくなっているため、必ずしも年末商戦が今までどおりに売れるとは思っていない。ただし、乗客数という点でいえば、客に来店してもらえる機会がたくさんあると思うので、変わらないのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・夏場の始めの景気と大きな差はない。
		コンビニ（経営者）	・年末年始にかけて本当は売上が伸びなくてはいけないのだが、最近の客の購買意欲からみると、望めないのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・夏から本部全体でも厳しい状況は変わらない。
		コンビニ（経営者）	・衆議院選挙によって変化があるかもしれないが、末端ではデフレ脱却とは感じられない。当社はコンビニを中心に展開しているが、客単価は逆に下がっている。また、販売価格も下がっている。
		コンビニ（エリア担当）	・週末に乗客数が減少する状況が続いており、不要な出費を控える傾向は今後も続くと思われる（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	・乗客数の減少が改善するきっかけがない（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	・実店舗売上の落ち込みをEC売上にカバーしている。また、客の消費志向がモノ消費からコト消費に移行しつつあり、レンタルの強化と客の所有している商品のリメイク対応にて売上の落ち込みを防いでいる（東京都）。
		家電量販店（店長）	・大きく変動する要因がない。
		家電量販店（店員）	・各家電量販店の競争は平行線で、変わらない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしている。整備は順調であるが、販売があまり芳しくない。新型車が出たので来場者はあるが、なかなか契約に結び付いていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・毎回のことだが、決算期終了後の反動減が予想されるため、不安材料はある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・やや良い状態のままで変わらない。全体的に景気は若干上向いており、消費活動も増えてきている。ただし、それを後押しするような政府の対応などが必要なので、極端に良くはない。今後の衆議院選挙の結果でどうなるかに注目していきたい（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	・来場者数はやや増加傾向にあるが、販売量は前年並みで変わらない。
		乗用車販売店（店長）	・高齢者の車離れが増えつつある。安全装備などの提案をしても、長く乗ることがないようで厳しい。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・毎月商品の動きを見ているが、いつも同じような感じで動いているので、先行きも変わらない。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・来月も値上げの予告があり、秋の主力商品もこのまま終わりそうである（東京都）。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・当面は現在の好調が継続する（東京都）。
		高級レストラン（副支配人）	・法人関連の宴席予約状況は、前年同日比でほぼ同様の推移となっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・天候の影響で、米など一部仕入単価が上昇しているものもあるが、全体としてはそれほど影響はない。先々の法人等の予約状況を見ても、前年並みと考えている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新事業者の参入は増加しているが、新旧の折り合いがつかない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・衆議院選挙の結果次第であるが、3か月後もあまり変わらないのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・人手不足が常態化している。北朝鮮問題、仕入原価の高止まり、衆議院選挙と良くなる状況はない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・当店の売上は株価と大体比例しており、株価が上がると売上もやや回復するという傾向がずっとあった。しかし、このところ株価が2万円台を回復しても、売上自体は逆に下がってきており、今までの流れとはやや違うと感じている（東京都）。
		一般レストラン（スタッフ）	・数字的に若干良くなっている。いろいろなチェーン店ができてきているが、当店のよう古くからある店は少なくなっているため、良い物を出していれば、利益としては少しだが、良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・変わらないというよりは、今回の衆議院選挙の結果次第でどうなるか分からないというのが正直なところである。
		都市型ホテル（総務担当）	・一部で売上が前年比プラスとなっているが、客単価等に変化の兆しはなく、底固い状況とはいえない。
		旅行代理店（営業担当）	・秋の商材が順調である（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・2～3か月後の予約状況を見ると、年内の団体については、法人、教育共にこれからの時期はなかなか難しいので、今の予約状況がそのまま結果に結び付く。今のところ、その他には大きなイベントや海外での動きもないので、変わらない（東京都）。
		タクシー運転手	・お盆休みや夏休みが終わり、これから冬休みに向かうが、ちょうど両方の谷間で、なかなか客が増えるような様子はない。今が我慢のしどきである。
		タクシー（団体役員）	・衆議院選挙の影響が読めない。
		通信会社（経営者）	・衆議院選挙が始まり、各種のばらまきが行われることで景気浮揚効果はあるが、一方で財政健全化が先送りされそうである。その点で不安感が増してプラスマイナスゼロになり、財布のひもが固くなる（東京都）。
		通信会社（経営者）	・1,000日前イベント等、東京オリンピックへの盛り上がり期待したいところだが、北朝鮮の動向や衆議院選挙といった不安定な状況が続くため、明るい変化はなく、様子見になる（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・景気を刺激する材料も見当たらないため、しばらくはこのままの状態推移する。
		通信会社（営業担当）	・競合他社も安価なサービスで攻勢をかけてきており、月額料金で判断されてしまうケースが一定数ある。
		通信会社（局長）	・スマートフォンと固定インターネット回線契約が融合していくなか、価格と高速通信容量などスピード重視のインターネット購買が一段落した時に、コンテンツをどのように取り込んでいくかで差が生まれてくる。その時に新たな顧客を創造ができるかどうかはまだ不透明である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・日経平均株価が2万円を超えても、景気向上を実感できるものが何もない。庶民レベルではまだ景気は回復していない。
		通信会社（総務担当）	・景気回復の好材料が現状では望めない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・現在テレビ加入者を増やすべく、新プランを開発しているが、開発が遅れており、販売時期が3か月以降先になってしまう（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・北朝鮮情勢の影響により、株式市場にも新規の資金が入ってこないような状況だと想定される。一部でも個人の懐が温まるような経済環境、新しい材料が見当たらない。
		パチンコ店（経営者）	・季節的要因もあり、これから年末に向けて、今一つしっかりとした手ごたえが感じられない。
		美容室（経営者）	・衆議院選挙が始まるためやや見通しが難しいが、大なり小なり客に影響が出るので、総じて変わらない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・他の塾を見ても、授業料自体の値上げや体験入学の期間短縮等は見受けられない。むしろ、体験入学は2～3か月延ばしており、授業料も変動がない。今の段階で人数の変化もさほどなく、景気が良くなっている実感はない。3か月後も変わらない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・周りの状況が10か月間悪くなったまま変わらないし、来年になるまで大型商業施設の跡地がどうなるか分からない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・年末の景気押上げも期待できるが、さほど変わりはないのではないかと。年間を通して時季での変化はあまりない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・良くも悪くも景気の変化は感じられない。
		設計事務所（経営者）	・営業的には、衆議院選挙があり、やや沈滞したムードで、先が見えない状況が続く。しかし、当社としては、今まででやりきれなかった仕事もあるし、新入社員が2名入るという希望に燃えた月になる。新しい仕事にチャレンジしながら、そして新入社員に仕事を覚えてもらいながら前進したい。景気は変わらないが、更に良くなることを目指し、作り上げていこうと社員同士の気持ちが高揚している様子が見受けられる。選挙に踊ることなく頑張りたい。
		設計事務所（経営者）	・地域的には首都圏に入るが、状況は厳しい。比較的立地条件の良い商業ビルが空き家になるなど、需要は落ち込んでいる。来月に衆議院選挙が予定されているが、今後の景気への影響はないとみている。
		設計事務所（職員）	・大きな変化が起きるとは考えにくい（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・個人消費が急に上がるような要素は感じられないため、今の状況が続くとみている（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・情報量はほとんど変わらないので、受注量もこの先数か月はあまり変わらないのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	・戸建ての受注を積み上げても、アパート建設受注の落ち込みをカバーできない見通しである。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・しばらく景気の変化は見込めない。今のところ新しい仕事の話がなかなかない状態が続いている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・大型量販店並びにインターネット通販の売上は伸びていると思うが、その分が地域の商店街の売上減に直結しているのではないかと。ただ見ているのではなく、何らかの方策を考えなくてはいけないのだが、1商店だけでは難しいところがある。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・10月以降は祭事が少なくなりそうなので、需要が滞る。
		百貨店（販売促進担当）	・衆議院選挙に突入すると、小売業は売上が一時的に低迷する傾向があるため、やや悪くなる（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・衆議院選挙の影響で多少は動きがあるかと思うが、来月も今の厳しい状況が続く（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・長雨などの影響で不作のせいや、野菜や果実類が少しずつ値上がりしている。客は買い控えしているようである。
		衣料品専門店（経営者）	・実感のない景気回復のニュースや、デフレを脱却していない現実とのギャップに不信感を覚えている。庶民感覚での景気回復を望んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・海外においては米国と北朝鮮の問題が国民に不安をもたらしているし、国内においては、衆議院選挙があり、この先どうなるか読めない。景気あるいは我々の商売の先行きにとっては、あまり良い傾向ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（営業担当）	・駅から当店に続く駅ビルが来年秋まで改装のため閉店しており、客の動線が寸断されている。来客数自体も減ってきているので、これから更に厳しい状況になる。
		住関連専門店（統括）	・販売量、売上の伸び悩みが今後も数か月間は続くともみている。衆議院選挙等が入るので、買い控えがもうしばらく続くのではないかと。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・特に販売量、販売単価が上がる要因もなく、客の購買意欲も変化がみられない。限られたパイの中での競合他社とのシェアの奪い合いは、わずかではあるものの単価引き下げにつながる可能性があるため、景気はやや悪くなる（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・北朝鮮などの世界情勢、今後の政局に対する不安が消費行動にどういった影響を及ぼすか分からないが、不安が先行することは間違いない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・今夏の天候不順により、関東、東海以北でいろいろな業種が影響を受けて売上が減少したので、程なくそれが経済に影響を及ぼしてくる。また、衆議院選挙も影響する。世界的には、欧米の経済が回復へ向かうといわれているが、それほど強固に安定しているとは考えにくい。他にも北朝鮮問題、英国、米国、フランス政治、地球規模の天候不順による災害等、不安要素がいくつもある。したがって、また警戒が必要である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先々の予約はほぼ全ての部門において前年を下回る状況である。唯一、宿泊はトップシーズンということもあり、前年並みに推移している。ディナーショーの販売は早い段階から仕掛けたこともあり売行きが良いが、衆議院選挙の影響で、企業の接待などの減少が懸念材料である。
		旅行代理店（経営者）	・衆議院選挙が始まると、様々なしなみがあり、旅行に出掛けることが徐々に少なくなるため、当社にとっては大変なことである。今の状況では、衆議院そのものがあやふやな状態で解散するので、こういった商売には余計に響いてくる。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行を取り扱っているため、南米のハリケーン、メキシコの大地震、テロや北朝鮮問題の影響による買い控えを懸念している（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・北朝鮮問題の影響により、海外渡航件数が減少する可能性がある（東京都）。
		タクシー運転手	・全体的に利用が少なく、先の見えない日が続いている。この先台風による影響で天候の不安定な日が続くため、ますます状況が悪くなる。
		タクシー運転手	・客との会話で好景気を感じない。また、タクシーの無人化、大きく言えば車の無人化に向かっている。車自体もハイブリッドから電気自動車に向かっている。それぞれを総合的に考えると、商売を読めなくなっている（東京都）。
		タクシー（経営者）	・東京オリンピックが終わると景気が悪くなることが見込まれるので、財布のひもが固くなる。
		通信会社（管理担当）	・解約が増えつつある。下げ止まるまで1～2か月は続く見込みである。
		パチンコ店（経営者）	・パチンコやスロットに関して、規制が過渡期に入り、あまり良い機械が出ていない。現状の機械をうまく使わなければならないため、10～11月、その先もやや厳しいのではないかと考えている（東京都）。
		その他サービス〔電力〕（経営者）	・マンションの契約率が依然として低迷していることから、今後マンションの新築ペースが落ちるのではないかと（東京都）。
		設計事務所（所長）	・東京オリンピックが3年後にあるが、景気が良いのは大手ばかりで、地方には仕事がなかなか回ってこない。一極集中型の景気の良さでは、なかなか全体的な景気向上にはつながらない。
		住宅販売会社（従業員）	・9月の販売量が非常に良かったため、2～3か月後は好調を維持していても9月よりはやや悪くなる。例年、年末、年度末に向かって販売量が増えるため、今よりかなり悪くなることはないと考えている。
	x	一般小売店〔茶〕（経営者）	・来客数は前年割れを繰り返し、売上も減少している。来客数回復の兆しが見えないため、景気は良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔家具〕 （経営者）	・8月末～9月にかけて、本当に客が少ない。売上がゼロというような状況が続いており、これから先も悪くなるのではないかと（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕 （経営者）	・オーバーストア状態のため、悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・大手のコンビニ業界では出店が相次いでおり、商圈内の売上の取り合いになっている。これからますます出店攻勢がかかるので、非常に厳しい状況が続く（東京都）。
	×	衣料品専門店（店長）	・来客数の減少が続いている。広告宣伝費用を増やして対応しているが、それでも前年を下回る傾向にある。
	×	一般レストラン（経営者）	・根本的な景気対策がないまま衆議院選挙を行い、どこが勝ったとしても、東京オリンピックで一時的に景気が良くなることはあるのかもしれないが、この先景気が良い方向に向かうとはとても思えない。
	×	旅行代理店（従業員）	・北朝鮮問題で、2～3か月先の取消しが相次いでいる（東京都）。
	×	設計事務所（所長）	・1つの仕事が終わると次のステップが見当たらず、かなり落ち込んでくるのではないかと（東京都）。
	×	住宅販売会社（経営者）	・本格的な景気回復の手段として、経済波及効果の大きい住宅対策を考えてもらわないと、景気はますます悪化していく。また、個人消費が増える対策もお願いしたい。公共工事については、現状にあった工事原価の見直しも必要である。
企業 動向 関連  (南関東)		出版・印刷・同関連産業 （経営者）	・来月から当社特有の繁忙期に入る（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業 （営業担当）	・法人関係が、印鑑のみではなくゴム印やスタンプ式の需要も徐々に上向きになり、注文が増加している。店頭で個人客の注文を受けているが、必要に迫られて作るものでもない彫り直しの注文が、孫のために作り直してもらいたいといった形でやや多くなってきている。必要ではないが、資金的に若干余裕があるので作ってみようという客がやや増えてきている（東京都）。
		プラスチック製品製造業 （経営者）	・取引先からの情報では、訪日外国人客が増加傾向のため、化粧品容器の受注増加が期待できる。
		一般機械器具製造業 （経営者）	・現状、仕事が多少増加傾向にあるが、人手不足である。やっと手当がついたが、補充するのにあと2か月くらいかかる。それでいくらか売上が良くなる。
		電気機械器具製造業 （経営者）	・設備機器業界は、建物が建ってしまわないと受注が増えない。これからはやや良くなるのではないかと期待している（東京都）。
		建設業（営業担当）	・地価が上昇し、不動産の動きが良くなり、建設設備投資が増えてきている。今後も建設の見積依頼が増えてくる見通しである。
		輸送業（経営者）	・今回の衆議院選挙は非常に重要だと思うので、結果によっては景気が多少良くなる要素を含んでいる。
		金融業（統括）	・今後もまだ少しは景気が良くなる。また、政治もそろそろ落ち着く。
		不動産業（総務担当）	・テナントによってばらつきがあるが、契約更新時に賃料の値上げに応じてくれるテナントが増えてきている（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・思っていたより北朝鮮問題が影響していないことと、今年だけだが、大手広告代理店の控えめな営業活動により、当社のような広告代理店にも少しだがお鉢が回ってきている（東京都）。
		税理士	・米国、中国の景気に影響される。米国は現政権がどのように転換していくか、また中国もバブルが弾けるのではないかなど、先が読めないところがある（東京都）。
		税理士	・これから年末に向かって、新政権の景気への入力は必至である。景気は良くなる期待感にあふれているが、北朝鮮問題で貯蓄へ力を注ぐ傾向に抵抗することは難しい。
		その他サービス業〔警備〕 （経営者）	・売上の原資となる警備員が増えないことには受注が増加しないため、防犯カメラ販売へのシフトを考えている。しかし、安全をお金で買うという意識は、日本にはまだないように感じる。
	その他サービス業〔ソフト開発〕 （従業員）	・人の動きが出てきたので上向くとみている。売上も上向き傾向である。	
	食料品製造業（経営者）	・衆議院選挙の結果次第である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（営業統括）	・上向く絶対的な要素が今のところ見いだせない。
		繊維工業（従業員）	・バブル期を超える長さの好景気が続いているという政府の見解も出ているが、現状を見る限り、当業界は個人消費が増えないと売上につながらず、厳しい状況が続いている。見通しが立たない状態が今後も続く（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・電話もFAXも少なく、新しい案件も少ない。
		化学工業（従業員）	・取引先から今後良くなる、悪くなるといった話は全くないため、変わらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・衆議院選挙後、どのような政局を迎えるかにより、経済がかなり大きく変わる可能性があるが、基本的な部分ではあまり大きな変化はないとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・見積件数や1件当たりのロット数も増加しているので、好調を維持できるのではないかと。
		金属製品製造業（経営者）	・今の状態が続くと、利益が出ないので、設備投資や賃金アップができず、将来が心配である。
		金属製品製造業（経営者）	・国内向けは東京オリンピック前の特需的要因があるため、いずれは下がる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・大手企業の9月の中間決算の影響が大きいがおおむね好調とみている。年末のボーナスにも影響し、中小企業の従業員も期待感が増すが、いまだに中小製造業の経常利益の改善がみられず、経費の上昇は否めない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・良くなることはないが、大きく悪くなることも考えにくい。
		建設業（経営者）	・衆議院選挙があり、その影響がよく分からないので、変わらないと回答している。
		建設業（経営者）	・特別に変わり映えはしない。全体的には景気も良くなっており、他業種も順調になっているようである。
		建設業（経理担当）	・この近辺では依然として改修工事が多く、景気が仕事を生んでいるようには見えない。
		輸送業（経営者）	・年末に向け取扱量の増加、現況改善の兆し等を期待したいところだが、例年の同時期の状況に鑑み変化は見込めないため、非常に厳しい（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・出荷量の増減の波が大きく、増加時の車両の確保が難しい。赤字でよう車を集めようにも、トラックが不足している。仕事はあっても車両不足の状況は当分続く。
		輸送業（総務担当）	・人員不足による募集費の増加、人件費の上昇など経費が膨らんできている。売上が伸び悩んでいるため、先行き不安である。
		通信業（広報担当）	・中小企業の経営状況があまり芳しくないため、当面は一進一退の状況が続く（東京都）。
		金融業（従業員）	・依然として先行きを不安視する取引先が多いが、建設業では都心部の再開発による受注増加が期待されている。また、競合先の廃業により受注が増えている取引先もみられる（東京都）。
		金融業（支店長）	・北朝鮮問題もあり、米国を始めとする各国との関係が微妙で、世界経済にも先行き不透明感がある。景気が良くなる兆しはない。
		金融業（営業担当）	・北朝鮮問題という不安材料や、人手不足の解消が程遠いこと、今後の衆議院選挙の行方もあり、消費が不安定になる。景気上昇とはまだいえない（東京都）。
		金融業（役員）	・10月の衆議院選挙の結果にもよるが、北朝鮮問題や国内政治への不安要素から、本格的な消費回復は期待できない。
		不動産業（経営者）	・新築物件が苦勞している現実はず変わらず、この状況はしばらく続きそうである（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・受注予定や販売予測は、今期や前年同期と比較しても変わらず推移している（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・衆議院選挙の影響などが出てくる可能性があるが、消費マインドが大きく変わることはない。
		経営コンサルタント	・繁華街の商店会会長から、衆議院選挙の話が出始めてから、先行きの景気に対する不透明感が増している。どうなるのか、不安がる会員も多い。先々の見通しが立つまで時間がかかる見込みで、商売人にはこの空白が困る、という話を聞いている。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・同業他社との単価競争が激しく、受注の増加と相殺され、景況感としては変わらない状況がしばらく続く。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・公的傾向の強い取引先においては、政治の状況によって先行きは全く分からない（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・特に大きな変動要素は見当たらない（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・衆議院選挙で慌ただしさはあるが、現在の景気が大きく変わる見込みは薄い。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・政治、国際情勢により、消費者の消費意欲が減退し、需要に影響が出る（東京都）。
		輸送業（経理担当）	・衆議院選挙、北朝鮮問題等、不安定な要因が多くあり、景気はどちらに転ぶかわからない。
		経営コンサルタント	・中国の動向、国内の経済政策の手詰まり感などから、やや悪くなるのではないかと（東京都）。
	x	出版・印刷・同関連産業（所長）	・用紙や配送費等が値上げされている状況だが、受注案件自体が少なく、価格にも転嫁できないことを考えると、更に悪くなる。
	x	建設業（経営者）	・消費税10%は重い。
	x	広告代理店（経営者）	・今月の案件をもって、納品が完了している。
x	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・既存の契約金額の改定ができないので、毎年10月以降は最低賃金の上昇分が収益を圧迫してくる（東京都）。	
雇用 関連  (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・扶養控除内就業のスタッフが、フルタイム又は限りなくフルタイムに近い時間帯への移行を希望している（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・例年、秋から冬場にかけて求人数が増加するので、現状よりは人材ビジネスの景気は良くなってくると見込んでいるが、例年に比べると、求人数、求職者数が減ってしまうのではないかと。正社員求人増加により、求職者が正社員求人に流れ、派遣就業希望者が減少傾向になっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新卒採用に関して、2020年まで積極的な企業が多いのではないかと（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・訪日外国人客の増加が続くと観測から、観光関連求人が増えている。片言でも日本語ができる外国人求人が多い（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・北朝鮮など海外情勢に懸念材料があり、国内の個人消費が伸びず、景気回復の実感が依然として得られない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・企業は人材不足で採用に苦戦しており、この状況は変わりそうにない。
		人材派遣会社（社員）	・市民レベルに影響のあるような変化が見込めない（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・改正労働契約法の影響が出始めてくる。派遣取引は一時的に減少傾向となり、人材紹介のニーズが高まってくると予想している（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・例年、年末に向けて求人数、求職数共に落ち着いてくるので、景気が大きく変わると思えない。
		人材派遣会社（営業担当）	・直近での景況に陰りは見えない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・現状では、極端に良くなる要素も悪くなる要素も感じられない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（所長）	・ここ数か月では大きな変化は感じられない。
		職業安定所（職員）	・求人数が増えても、求職者の希望職種は変わらず、人手不足は変わらない。
		職業安定所（職員）	・管内の正社員求人割合は上昇傾向にあり、建設、運輸、製造業等においては正社員求職率も高まってきているが、サービス業の求職率では正社員以外が正社員を上回っており、正社員希望者が少ない状況である。
		職業安定所（職員）	・北朝鮮問題の緊張が高まっており不安ではあるが、すぐに状況が悪化し経済に悪影響を及ぼすまでには至らないのではないかと。また、景気もそろそろ頭打ちになるのではないかとみている。
	職業安定所（職員）	・企業の求人意欲は旺盛で、今後も新規求人数は横ばいで推移するとみている（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業業績は全般的に良いが、今後は業種によって成長度が違ってくる（東京都）。
		民間職業紹介機関（職員）	・特に大きく変化する要素は見当たらない（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・変化する要素がない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・複数の経営者と話をしたが、内閣改造して全く仕事をしないうちに解散になったので、景気回復が遅れると話する人が多い（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・今ある衆議院選挙の短期的な特需が終了する分だけ採用数は減るが、依然として求人数が多い状態が継続する（東京都）。
	x	-	-

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連		商店街（代表者）	・東京オリンピックに関連する業種の動きが、一層活発になってきている。
		一般レストラン（経営者）	・年末年始に向けて、人の動きが出てくる。
(東海)		商店街（代表者）	・客の様子から、景気は底からは脱し、少しずつだが上向きつつある。
		百貨店（企画担当）	・好調な食料品やレストランに加え、インバウンドによる化粧品を中心とした購買が大幅な伸びを示しており、全体的に好調が続く。
		百貨店（経理担当）	・北朝鮮問題等の地政学リスクは懸念されるが、堅調な株価や企業業績の伸長による所得増加が消費を後押しして、しばらくは景気の上向きトレンドが持続する。
		スーパー（経営者）	・年末年始にかけての参拝客の増加に期待している。
		スーパー（総務担当）	・気候も落ち着き、野菜価格も平年並みになってきており、販売企画も立てやすくなっている。
		スーパー（支店長）	・気候も良くなり消費拡大が見込めるが、今後の国の政策と方向性が不透明なため、不安もある。
		スーパー（営業企画）	・衆議院選挙による先行きへの期待感から、若干の景気上昇がある。
		スーパー（販売担当）	・様々な催事を計画しており、売上が増加する。
		コンビニ（エリア担当）	・主力である米飯商品等が前年比で改善し、来客数も順調に推移している。継続的な夕夜間のキャンペーンの実施により売上も改善傾向にあり、業況はやや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・株価は安定しており、客との話からもムードは良くなってきている。衆議院選挙の結果は気になる。
		乗用車販売店（経営者）	・秋以降は各地でイベント開催等の動きが活発になる。天候も安定してくるので、週末の来客数の増加を期待する。
		乗用車販売店（経営者）	・12月決算に向けて年内の買換えを考えている客の動きが、前年よりも活発である。
		乗用車販売店（従業員）	・問い合わせも入っており、今より良くなっていく。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・季節が変わり、必要となる物が変わってくる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・衆議院選挙も終わり、年末商戦へ突入する。選挙の結果によっては、悪くなる恐れもある。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・年末が近づくとつれて来客数や購入量は増加する。大型店オープンの影響も考えてイベントを数多く企画しており、売上増加を期待している。
	その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・年末やクリスマス等があり、プレゼントや自分へのご褒美に金を使う人が増える。ぜいたくな物にも少しずつ金を使うようになり、景気はやや良くなる。	
	一般レストラン〔パン・カフェ〕（経営者）	・秋から冬にかけてはイベント等に力を入れて、売上も現状維持以上を目指す。	
	一般レストラン（従業員）	・衆議院選挙で、何かと忙しくなる。	
	タクシー運転手	・衆議院選挙で様々な動きがあり、2～3か月先は、今よりは良くなると見通している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・どのような結果になったとしても、衆議院選挙によってこれまでの混とんとした政治や社会はリセットされ、景気も回復に向かう。
		ゴルフ場（企画担当）	・11月の予約は各施設で前年同期を上回っており順調である。天候も比較的安定する時期であり、好調な推移が見込まれる。
		美容室（経営者）	・夏場は、来客数が減少し売上も減少したが、これから年末年始に向かってはパーマをかける客も多くなり、良くなっていく。
		美顔美容室（経営者）	・12月末までセット商品のキャンペーンが続き、お得感のあるセット商品の購入がある。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・気候が良くなり行楽等の外出が増え、関連商品の需要が伸びる。また、年の瀬までに住環境を整えようとする駆け込み客も出てくるので、業績には追い風となる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・内職の依頼に対して人手不足の状況は変わらず、最低賃金も上げられることから、加工賃等の単価アップにつながる。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・数件の新築物件で受注しているが、工程が進んでそろそろ当社の関係する施工段階になってくる。
		商店街（代表者）	・衆議院選挙の争点で消費税の引き上げの議論が出ており、これまで以上に節約志向が強まる。
		商店街（代表者）	・販売量や客の様子から、これ以上悪くなっていくことはないが、今後良くなるようにも、全く感じられない。
		商店街（代表者）	・これまでになく社会情勢は不安定で、なかなか消費に金が回らない。
		商店街（代表者）	・衆議院選挙の結果によって多少のぶれはありうるが、基本的には変わらない。中小企業の景気が上向きになることはない。
		商店街（代表者）	・バラ売りができる売店はよいが、駅売店のように箱詰め商品しかない店では、10個入りより6個入りといった小さい箱へシフトしている。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・衆議院選挙の結果も決まる。先行きにはあまり良くない材料がある。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・景気は良くなっていると耳にするが、全く良くなっているようには感じられない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店の客の様子からは、この先も街中での飲食店の利用が増えるようには見受けられない。飲料の販売も当然伸びない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・一部の大口客によって売上は支えられるが、来客数は減少が続く。企業としてある程度努力することによって、全体としては3か月先も現状維持を見込む。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・地方の不景気は変わらない。一部に活況の企業もあるが、全体では横ばいである。秋のセールに期待したい。大手チェーンの厳しい出店攻勢で地元ドラッグ業界では安売り競争が激しく、利益の得にくい状況になっている。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・秋から冬にかけては、例年どおりの受注増加が見込まれる。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・衆議院選挙後の行方や米国と北朝鮮の問題等、わからないことや不透明なことが多すぎて、何とも言えない。
		百貨店（売場主任）	・秋冬商材が少し出ているが、購買意欲を示す客はまだ少なく、売上に結び付かない。繁華街には買物よりも食事だけに來る人が多い。
		百貨店（経理担当）	・今の状況が急激に変化するとは思えない。国際情勢や衆議院選挙の結果によっては、景気が悪くなる方向に向かう。
		百貨店（販売促進担当）	・衆議院選挙が終わるまでは、買い控えが続く。
		百貨店（経営企画担当）	・衆議院選挙が終わるまでは、客の動きや売上が鈍る。中国政府の旅行規制等もあり、今後の動向が心配である。
		百貨店（売場担当）	・商品単価が高くなり客単価も上昇が見込まれるが、集客できるイベント等がないため、大きくは変わらない。
		百貨店（販売担当）	・限定商品の投入やイベントもあり、自家需要、ギフト需要共に好転を期待する。
		百貨店（販売担当）	・高額品の伸びはしばらく続くが、中間層の動きの鈍い状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（計画担当）	・ターミナル駅エリアへの流入が相変わらず続いており、食品を中心に好調を維持する上に、インバウンドの伸びが今後も見込まれる。
		スーパー（経営者）	・中小飲食店には、特に先行きは悪くなるという声はなく、現状と変わらないという声が多い。
		スーパー（経営者）	・年末頃の景気はまあまあではあるが、相変わらず消費は伸びない。グローバル化の影響で、大企業のボーナスはまずまずでも、中小零細企業ではあまり出せないため、歳末の売出しも全体的には伸びない。人手不足は続くが正社員は増えず、パート、アルバイトの比率はますます高まる。
		スーパー（店員）	・足元では来客数も購入点数も減少が続いている。
		スーパー（店員）	・台風が今後の作物にどう影響するかが気になる。小旅行や運動会等、イベント関連の消費に期待している。
		スーパー（販売促進担当）	・衆議院選挙が終わるまでは、ギフト等の高額商品の動きが鈍くなる。
		スーパー（人事担当）	・消費税の引上げが進められない限り、大きな変動はない。
		コンビニ（企画担当）	・良くなる要因は見当たらないが、大幅に悪くなるとも考えにくい。
		コンビニ（エリア担当）	・10～11月にも3連休があるが、全体的な流れとしては大きく上向きようには感じられない。
		コンビニ（エリア担当）	・わずかに良くなっているようにも感じるが、セール品以外の売上は減少しているため、財布のひもは厳しいままである。
		コンビニ（エリア担当）	・衆議院選挙を控えているが、その結果で経済が好転するとは感じられない。
		コンビニ（店長）	・街全体の人出が落ち込んでいる状況は変わらない。クリスマスや年末の景気も、前年以上には上向かない。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数は伸び悩みが続き、短期的には改善が見込めない。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・景気の回復を期待はしているが、これまでの流れを考えると、現状維持が精一杯である。クリスマスや年末商戦についても、衣料品の苦戦は変わらない見込みであるが、雑貨関連については、買換え等を含めて回復が期待できる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・一部のブランド商品には動きがある。それ以外のブランドを扱っている店では苦戦が続く。
		家電量販店（店員）	・有機ELテレビ等、高額な商品を客には勧めているが、実際に売れ始めるのは、まだまだ先になりそうである。
		乗用車販売店（経営者）	・各メーカーから注目される新型車種が発売されているが、販売量にどれほどの好影響があるかは、まだ不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	・今後、マイナーチェンジや特別仕様車等のでこ入れもあり、年末に向けては、新車に関心をもってもらえると期待する。市場の動きはまだ鈍いが、新しい安全装備をPRして買換え需要を喚起したい。
		乗用車販売店（従業員）	・前月までは想定外に好調を維持していたが、足元の動きをみると、先々は厳しい見通しである。ただし、工場への在庫量はわずかに増えており、それほど悲観するような状況でない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車種の発表等はなく、既存車種を地道に売るだけである。全社的な取組による社員の意識改革もあり、新規客ばかりに期待せず点検等で入庫する客に繰り返し促進することで、買換え客も増えている。販売台数は大幅には増えないが、大幅に減少することもない。
		乗用車販売店（従業員）	・北朝鮮問題や衆議院選挙の結果等によって様々なことが大きく動く可能性があり、景気の先行きは良くも悪くも不透明である。
		乗用車販売店（総務担当）	・雇用情勢のひっ迫を実感する。所得水準も徐々に改善していくと思うが、消費拡大への影響までには時差がある。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型車種がデビューしたが、行政の不備で登録がすぐできず、スタートダッシュを逃し苦戦している。
		住関連専門店（営業担当）	・住宅やマンションの新築物件や公共投資等は減少が続く。ただし、リフォーム物件は今後も増加が見込まれる。
		高級レストラン（役員）	・年末の予約の入り方が、前年同月比で弱い。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる理由が見当たらない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・衆議院選挙の結果次第であり、新政権が明るい材料を提示して雰囲気だけでも良くなれば、少しは良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・消費者は無駄遣いせず、本当に必要な物のみを購入する。ただ、イベントの時等の大きな支出への抵抗感は薄まっている。
		都市型ホテル（従業員）	・先行きの予約数から横ばいが見込まれる。
		都市型ホテル（支配人）	・宿泊は、外国人旅行者の動向次第である。
		都市型ホテル（経理担当）	・前年並みの推移が続いている。
		旅行代理店（経営者）	・10月は旅行業にとって書き入れ時だが、衆議院選挙があり少し心配している。
		旅行代理店（経営者）	・全体としては落ち込んでいないが、需要の変動を吸収できる業界とできない業界があり、平均化された景気としては変わらない。国内だけをみれば景気は良いように見えるが、海外と比較すれば、伸び率は低い。
		旅行代理店（経営者）	・秋の味覚シーズンから、クリスマス、正月、カウントダウンイベント等の情報を目にする機会が増えれば、旅行を計画をする人も増える。ただし、派手に金を使って旅行する人や、業績が良いので忘年会を宿泊でやるうという企業は、以前より少ない。
		旅行代理店（従業員）	・衆議院選挙があると旅行が減る。特に団体旅行は参加人数が少なくなる。秋の繁忙期の旅行需要の減少は、業界の景気に大きな影響を与える。しばらく景気は上昇しない。
		タクシー運転手	・長い間、夜の繁華街の人出は少なく、ここ1～2年の動きも変わらず、すぐ良くなるという感触はない。
		タクシー運転手	・足元の状況があまり変わらない。
		通信会社（営業担当）	・新機種の発売がやや遅れ気味で、業況に影響する懸念があるが、他の機種の販売で何とかなる。
		通信会社（営業担当）	・これといって変動する要素がない。
		通信会社（サービス担当）	・販売の起爆剤となる、新規客への新サービスやキャンペーンがないため、今と変わらない。
		通信会社（営業担当）	・新商品もなく安価な商品もないため、変わらない。
		通信会社（営業担当）	・これまで販売量は増加してきたが、今後は現状維持で推移する。
		テーマパーク（職員）	・天候にも左右されるが、施設内の花が例年よりも長持ちしそうである。
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	・祝日については団体予約や観光列車への問い合わせがあるものの、平日の動きが相変わらず少ない。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・衆議院選挙の結果次第であり、微妙である。
		美容室（経営者）	・これといったイベントもなく、来客数は、減少か現状維持である。
		住宅販売会社（従業員）	・当分は横ばいである。
		住宅販売会社（従業員）	・例年、11月後半からは来客数も契約数も伸びなくなる。10月までが重要であるが、客の動きは鈍く、低調のままが続く。
		住宅販売会社（従業員）	・この地方では、東京オリンピックの効果はいまだに感じられない。材料の間屋が閉店し、業種によっては仕事を続けるのが困難になって辞める業者もいる。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・年末に向けては、来客数は減少が続く。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・節約志向が強まり、客は価格に対して敏感になっているので小売業は厳しい。季節要因を考えると今後は若干上向くかもしれないが、あまり変わらない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・従来の実店舗での販売とネットの販売との差がどんどん出てきており、実売は駄目になっていくと感じる。今後、実売は少しずつ減っていく。
		百貨店（販売担当）	・なかなか盛り上がる要素に欠ける。ヒット商品も少なく厳しい。
		スーパー（店長）	・食品の値上げが続き、消費者の買い控えが一層進む。
		スーパー（販売担当）	・10月に競合店が2店増え、2～3か月は影響するが、その先には巻き返す意気込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		スーパー（ブロック長）	・北朝鮮の問題は不透明で、衆議院選挙も実施され、状況は不安定である。競合先の出店もあり、競争は一層激しくなる。	
		コンビニ（店長）	・食品類の仕入価格が上がってきている。販売価格は上げられず、じわじわと影響が出ている。	
		コンビニ（店長）	・ドラッグストアが学区内にまた1店オープンし、ますます競争が激しくなる。	
		家電量販店（店員）	・政治が安定し先行きが見通せるようになれば、景気は良くなるが、北朝鮮問題も含めて、このままの状況では悪くなっていく。	
		乗用車販売店（営業担当）	・10月にはいったん落ち込み、その後の回復を期待するが、現在のラインナップのままでは厳しい。	
		観光型ホテル（経営者）	・11～12月は、例年と変わらない団体客のみで新規開拓がなかなか進まない。12～1月は県外客が少なくなり、新たに市場を開拓しないと、2～3か月先は今よりも悪くなる。企業に元気がないと社員旅行や慰安旅行等は行われぬが、経済の実状からは、まだまだ動きに乏しく、かつての企業文化も復活していない。	
		旅行代理店（経営者）	・天災、国際情勢、衆議院選挙等により、今後もなかなか景気回復が見込めない。	
		旅行代理店（経営者）	・北朝鮮情勢等への不安等がまだまだ続く。	
		理美容室（経営者）	・客との話では、物価も上がり景気は段々悪くなっていく。	
		美容室（経営者）	・東京の景気が良いが、地方は良くない。サービス業は特に良くない。	
		設計事務所（経営者）	・種まきとなる計画件数が現時点では少なく、先の仕事量も見通せる範囲である。	
		設計事務所（職員）	・衆議院選挙があるが、景気に対する策は何も示されない。何も無い状況では、景気の見通しは立たない。	
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・仕事量は増えているが、発注単価が低い上に原価や人件費が上昇しているため利益が出ない。全体的に発注単価の上昇はまだ先のように、景気が回復しているとは思えない。	
		×	スーパー（商品開発担当）	・来客数は前年同月比99.4%で、今まで前年を割ったことはなかった客単価も9月には初めて前年を割っている。来客数は売上に影響するので、回復できなければ先行きも厳しくなる。
		×	衣料品専門店（経営者）	・冬物商材は単価が高く、なじみ客でも買い足し程度の需要しかない。
		×	一般レストラン（経営者）	・政治の動きや消費税の引上げ等の国内情勢、北朝鮮問題等、消費マインドにマイナスの要素ばかりでプラスの要素がない。
		×	観光型ホテル（販売担当）	・一般宴会は、前年は通常は見込めない一見の大口客があった特異月であったため、前年同月を上回ることはない。非常に厳しい見込みとなっている。
	×	パチンコ店（経営者）	・監督官庁の規制が来年2月より実施され、業界全体で減収が見込まれる。	
	×	理容室（経営者）	・客からは景気の悪い話は何も出ず、どうしようもない。	
	×	住宅販売会社（経営者）	・分譲用の土地はなかなか購入できず、土地の売り物件自体が少ない。物価の上昇に伴って客も減少しており、先行きが不安である。	
企業 動向 関連 (東海)		輸送業（エリア担当）	・適正な運賃交渉に対しては、客の了解がしっかりと得られている。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・例年11～12月は物流が活発な時期となる。今のところ客からは不安な情報もなく、受注量、販売量共に増加見込みである。ただし、収益面では多少苦戦が続く。	
		化学工業（人事担当）	・北朝鮮情勢のリスクはあるが、特に何も起こらなければ、景気は少し良くなる。	
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いが増加しており良くなる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・当社の新製品を市場に投入するため、売上が増加する。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・為替は円安基調で安定しており、その分輸出は堅調に推移する。	
		建設業（役員）	・地域では自動車関連企業が安定しており、需要と供給がバランスしていれば、価格が上昇してもマンションや住宅の購入客がいる。消費税引上げ前の駆け込み需要にも期待をする。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・国内シェアの高い新型のスマートフォンや新型SUV・EVの発売で、一時的に消費は活気付く。秋祭りやイベントによる需要増加、市外からの旅行者の増加による消費拡大も期待できる。
		不動産業（用地仕入）	・都心の高額マンションの完売が評判となり、都心部に住むことの価値が高まる。
		行政書士	・これから年末に向けて、貨物量が増えてくる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・決算が好調で、通常の年2回のボーナスとは別に、決算ボーナスを支給する企業も増えている。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・政治的に揺れ動いてはいるが、大きな変動はない。為替はやや円安で、輸出関係企業は安泰である。リーマンショックから10年近くとなり、そろそろ何か起きないか注意する必要がある。
		食料品製造業（営業担当）	・し好品である飲料製品は、景気が良くないと購入が落ち込むので業界全体が伸び悩んでいる。受注量、販売量が年末のボーナスにも影響するため、厳しい状況が続く。
		化学工業（営業）	・プラスチック原料であるナフサの価格には、大きな変動がない。
		化学工業（総務秘書）	・景気を大きく変動させる要素がないため、やや良い状況から変わらない。北朝鮮情勢による円高は若干のマイナス材料だが特段の影響はなく、衆議院選挙も影響しない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・メインアイテムとして期待し、順調に伸びていた製品が客を失って急減し、しばらくは売上が回復しない。
		鉄鋼業（経営者）	・衆議院選挙で一時的に停滞する可能性があり、先行きは不透明である。
		金属製品製造業（従業員）	・全体的に仕事量が少なく、値崩れが続いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量、販売量共に安定して推移している。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・米国では老朽設備の更新が急ピッチで進んでいるので、しばらくは今の勢いを維持できる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・米国の金利政策や北朝鮮問題等、不確実な要素があるので見通しにくい。現状のままが続けば、景気の落ち込みはない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・変化する要因が見当たらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・横ばいが続く、これ以上伸びる要素もない。以前に比べれば、高い水準での横ばいである。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・放送・通信業界の設備投資意欲は旺盛だが、システム構築に必要な監理技術者の不足が懸念される。早急な機器増産体制への転換にはちゅうちょがみられ、先行きに対する不安感や警戒感がうかがえる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の製品生産計画が、来年上半期くらいまでは現状の水準程度となっている。
		建設業（営業担当）	・役所の予算は年度単位で決まり、期中ではなかなか増えない。施設の経年劣化が進むため維持管理の予算は確保されているので、この先も多少は仕事が入る見込みである。
		輸送業（経営者）	・客からの強い引き合いもあり、安定した物量の確保が見込まれる。
		輸送業（従業員）	・原油価格が比較的安定していることが、景気が大きく変動しない要因の1つになっている。
		輸送業（エリア担当）	・燃料の軽油価格が前年より10円近く上がっている。価格としては特に高い水準ではないが、荷動きも緩慢で、先行きが見通しにくい。
		輸送業（エリア担当）	・景気が横ばいで、輸出入が変化する要因がない。
		輸送業（エリア担当）	・景気が良くなる要素がない。今のままの状況が続く。
		通信会社（法人営業担当）	・様々な経済状況が好転しているようだが、家庭では実質賃金が目減りしているためか、実感が伴わない。実体のない好景気ともいえる。
		通信会社（法人営業担当）	・衆議院選挙に関心が向いているのか、官公庁からの受注がストップしている。民間企業からの提案依頼に対応しても、反応がない。政治ではなく消費の活性化を促してほしい。
		金融業（従業員）	・今後について見通せる範囲では、景気の激変はない。販売業や製造業についても、目にみえる変化はなさそうである。
		金融業（企画担当）	・北朝鮮問題の地政学リスクもあり、相場が好転するような大きな動きは見受けられない。当面は現状のままの景気が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（経営者）	・10月は例年より晴天の日が多いという予報もあり、当面は今月と同様に良い状態が続く、売上も前年同月比100%以上で推移する。
		不動産業（経営者）	・不動産評価額は上昇傾向にあるが、実体価格には変化が感じられない。
		広告代理店（制作担当）	・景気が良くなりそうな材料はなかなか見当たらず、このまま現状維持の状態が続く。
		公認会計士	・業況が改善するような要因が見当たらない。
		会計事務所（職員）	・企業間の格差や個人の所得格差は更に広がるばかりである。大手企業を中心に考えれば景気は良くなるが、中小企業を主体に考えれば、悪くなる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・12月までは客の案件発注の動きが少なく、受注増加にはつながらない。
		建設業（経営者）	・政治が国民のために行われていない。アベノミクスも絵に描いた餅である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・新聞折込チラシに対する広告主の目が、一段と厳しくなっている。
	x	-	-
雇用 関連  (東海)		人材派遣会社（社員）	・足元の状況が悪かったので、2か月先には良くなる。法人客の予約状況も良い。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・国内新車販売台数、輸出台数共に上向きに推移しており、今後もしばらくは好調が見込まれる。
		職業安定所（職員）	・人手不足感が一層強まっており、人材確保のために労働条件や賃金体系の見直し等を考える事業所が徐々に増えている。働き方が変化することで、景気回復にもつながっていく。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業の求人条件では、学部や専攻等の制限が緩和されてきている。対象の拡大と同時に、入社後の教育も充実している。
		人材派遣業（営業担当）	・国際情勢が不安定ななかで衆議院選挙も重なり、しばらくは様子見となる。
		人材派遣会社（社員）	・引き続き求人数の増加、求職者の不足共に続く見通しである。
		人材派遣会社（営業担当）	・世情としては衆議院選挙で若干の変化はあっても、政権交代による経済政策の大転換等がなければ、景況感への影響はほとんどない。それ以外にも景気に影響しそうな要素は見当たらないので、やや上向きの景況感、2～3か月先も変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・衆議院選挙や北朝鮮情勢等に鑑みると、景気に対する前向きな期待はもてにくい。
		人材派遣会社（支店長）	・求人数は年間ベースではほぼ横ばいで、堅調に推移している。例年、10～3月は求人数が増加するので、引き続き良い状況が続く。
		職業安定所（所長）	・人材確保が難しい状況は改善しない見込みで、しばらくは変化がない。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向は変わらず、人手不足も厳しいままである。
		職業安定所（職員）	・窓口には、会社都合の転職ではなく、自らより好条件での就職を求めて登録に来る求職者が増加している。ただ、雇用情勢全体をみると、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・衆議院選挙等、先行きが不透明で不安感があり、景気への影響も懸念される。先行きは、良くて現状維持の見込みである。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・大手企業は、まだ採用枠は残っているが、ひっ迫度の高いポジションは充足してきている。10月以降は、地場の中堅・中小企業で採用活動の積極化が見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・求人の動きは落ち着く。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・衆議院選挙の期間、企業の採用活動は明らかに停滞する。正社員不足の企業や新卒者が十分に採用できていない中小企業への影響は計り知れず、生産性の低下にもつながる。	
	職業安定所（職員）	・前月に比べて、新規求人数が8%減少し、新規求職者が8.5%増加したため、新規求人倍率が0.37ポイント低下している。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)		通信会社（営業担当）	・年末商戦と年末の新商品発表に向けて、来客増及び販売増が見込める。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・年末商戦に加え、働き方改革に関連する商材の売上を見込んでいる。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・冬場になればカニやブリ、タラなどの高額商材が出回るので売上は上がる。しかし、前年を上回るかどうかは自信がない。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物商材の消費マインドは高まるとみられ、婦人ファッションやリビング関係、寝具などで売上をけん引し、好調さを保つと期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・独自のイベントを続けて行っており、来客数と売上の増加を期待している。
		観光型旅館（スタッフ）	・8月中旬以降は予約状況が前年同月比で改善傾向にあり、個人客に動きがみられる。また、10月以降の予約状況は前年比90%台に回復しつつある。
		通信会社（職員）	・来年の国体関連イベントや北陸新幹線延伸工事などの動きが期待感を盛り上げている。
		通信会社（役員）	・今月の動向から見ると、年末の商戦期に向けて例年どおり契約数が増える見込んでいる。
		商店街（代表者）	・気候の変化に伴って、薄手から厚手の衣料に変化していきそうである。極端な流行や変化はみられない。
		商店街（代表者）	・衣料品関連の量販店で値下げの動きがあり、客が低価格志向に流れれば、売上のアップや利益確保はますます厳しくなる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数は増えているが、1人当たりの購買数が少ない。このことから、売上については横ばいで推移する状態がもう少し続きそうである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・総選挙を控えて先行きが不透明である。
		百貨店（売場主任）	・10月は総選挙の影響で一時的に消費が冷え込むとみている。11月以降は選挙結果に左右されるだろうが、現時点での先行きは見通せない。
		百貨店（販売促進担当）	・皇室の婚約発表があり、消費マインドの改善が期待できる。しかし、総選挙で消費税増税問題がクローズアップされており、今後の見通しは厳しい。
		スーパー（店長）	・求人倍率の高さから、働く人の数は増加していると考えられる。しかし、個人の収入そのものが増えているわけではなく、個人消費が上向くとは考えにくい。
		スーパー（総務担当）	・どの食品スーパーも売上が伸びないため、特売価格が更に安くなっている。
		スーパー（店舗管理）	・特に良くなる要素は見当たらないが、天候が秋らしくなって秋の収穫や新米が後押しとなり、旬の食材への購買意欲が増加することを期待している。
		スーパー（統括）	・購買意欲が変化するような兆しはみられない。
		コンビニ（経営者）	・新タイプの煙の出ないたばこが大変好調に推移しており、今後とも売上は好調に推移すると考える。ただし、一番の主力である弁当類やおにぎり、寿司などといった食料品関係が前年を下回る状態が続いている。本来はこれらが上向かないと良くなっていかない。売上高に関しては何とか前年を維持している状態である。
		コンビニ（経営者）	・良くなる要素がない。
	家電量販店（店長）	・今年は残暑が短く、主力の白物家電が前年に比べて伸びなかった。これから売上が伸びるとは考えにくい。	
	家電量販店（本部）	・目新しい製品、あるいは消費を刺激する政策などがみられない。	
	乗用車販売店（経営者）	・複数の新型車の投入があるが、販売量拡大はあまり期待ができない。	
	乗用車販売店（役員）	・総選挙の結果にもよるが、将来の消費税増税を見越して購買意欲の向上がみられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・寝具類は朝晩の冷え込みで売行きが順調だが、日中の暑さのため秋物衣料の動きが弱く、前年を割っている。客は必要なものだけを吟味している様子である。
		一般レストラン（店長）	・大きな流れは変わらないが、急な総選挙の影響を懸念している。
		一般レストラン（統括）	・10月の歓送迎会予約と年末の忘年会予約が、例年より少し早めに入っている。またテイクアウト需要は月を追うごとに増えている。しかし、平日の店内客は微減しており、トータルでは変わらない状態である。
		観光型旅館（経営者）	・10月の先行予約は、前年比で約10%ほど減少している。11月以降の観光シーズンや忘年会シーズンに期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・販売単価は前年を上回っていない。生鮮食材や輸入食材、ビールなどの仕入価格が上がっているが、販売価格に転嫁できない。値上げをすると来客数が顕著に減少する。客の購買意欲に慎重さがみられる。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は今後も堅調に推移するとみている。宴会部門は大型のコンベンションと企業の周年行事の受注があるが、婚礼の少人数化と1組単価の下落が顕著である。ホテル全体での景気動向は変わらないと考える。
		旅行代理店（支店長）	・特に目立った動きがみられない。
		タクシー運転手	・週末を中心に、観光客は今月より増えるの見込んでいる。しかし、平日はほとんど期待できないため、相対的には変わらないと考える。
		通信会社（営業担当）	・他社契約からの新規乗換えが増加しつつあるが、必要最低限の安いコースを選ぶ客が多く、前年と比べて売上に大きな差がみられない。
		通信会社（役員）	・固定通信サービスの事業者間競争が、今後更に激しくなるとみられる。しかし、市場全体の伸びがあまり期待できないなかで、契約者の獲得数に大きな変化はないと考える。
		美容室（経営者）	・購買意欲に大きな変化はみられない。
		住宅販売会社（従業員）	・前月同様に大きな動きがほとんどない。引き合いがあるものの、実際の成約には結び付かないのが現状である。
		住宅販売会社（従業員）	・契約までに今まで以上の労力が必要であり、対応が難しい客が増えている。イベントなどへの来場者数は増えないものの、コンスタントに来場はあるので、粘り強く客への対応ができるかどうかで成果が大きく変わる。
		住宅販売会社（営業）	・消費税増税まで目立った動きがあるとは考えられない。
		商店街（代表者）	・中間層の衰退から考えて、今までの商品構成では購買需要をつかみきれないようである。衣料品では生産側の体力が大分落ちており、新しさに欠けて魅力に欠けるという負のスパイラルに入ってきている。
		コンビニ（店舗管理）	・人手不足のため求人広告費用が大幅に増加している。時期的に採用が難しく、来春までは広告費の垂れ流し状態であっても、求人を続けざるを得ない。
		衣料品専門店（経営者）	・地方のファッション専門店は、構造的な不況に陥っており、生き残りをかけて苦しんでいる。
		家電量販店（店長）	・現在のテレビは、来年から始まる4Kや8K放送に対応したチューナーが内蔵されていないため、年末の販売では買い控えが発生する。
		自動車備品販売店（役員）	・5年前の新車販売増から考えて、タイヤ交換時期の需要期待は高まっている。しかし、総選挙や北朝鮮問題など先行き不透明に加え、タイヤ値上げの影響によって低価格商品を希望する客の動向から、ますます景気は悪くなると考える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・前年に好調だったシネマの反動が冬まで続くとみられるため、来客数の低迷により他業種の売上減が見込まれる。客単価に大きな変動はないが、衣料品の購入率が伸びない傾向は今後も続く。服飾雑貨やホビー用品など衣料品以外の売上を確保していく必要がある。
		スナック（経営者）	・国内外における有事などで状況は悪くなる可能性がある。
		旅行代理店（所長）	・10月の旅行シーズン中に総選挙があるため、旅行を控える傾向にならないか懸念している。
		タクシー運転手	・10月は総選挙があることから、夜は人出がなくなり、ますます静かになる。
		テーマパーク（役員）	・北陸新幹線開業効果が落ち着きをみせ、向こう3か月の予約状況を前年同月比でも、団体客を中心に約1割近い減少になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・予想以上に売上が減少傾向にあり、上昇に転じる見込みも要素もない。しばらくは下降線が続くと考える。
		その他レジャー施設（総支配人）	・超低価格の競合店が1キロ圏内に営業を始めるので、その影響が間違いなく出てくる。
	x	-	-
企業動向 関連 (北陸)		-	-
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・今後の受注見通しは堅調であり、当面はこの状況が続くとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注量のみで、やや良くなると考えている。
		通信業（営業担当）	・中小企業向けの通信事業が比較的順調である。課題解決型の営業によって客のニーズにマッチしてきたためとみられる。
		司法書士	・国体関連や北陸新幹線延伸による駅前再開など、建設業では活発な動きがある。
		食料品製造業（経営企画）	・現状より受注が増加しても、労働力確保が難しく供給量に限界がある。
		繊維工業（経営者）	・為替の変動により、スポーツ向け衣料の輸出に期待している。しかし、国内消費には相変わらず先行きに不安がある。
		繊維工業（経営者）	・10月は来春向け商材の受注時期であり、やや数量が増える見通しである。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外を中心に受注量は高止まりを維持している。しかし、国内においては政治面で、海外においては地政学的リスクが更に高まっており、今後の受注量は不透明感がより強くなっている。今後は事業面でリスク分散できる体制へとスピードを上げて取り組む必要がある。
		精密機械器具製造業（役員）	・相変わらず為替変動への不安はあるものの、今のところある程度の範囲に収まっている。大きく上向いていくとは見込めないが、ほぼ現在の状況のまま推移すると考える。
		建設業（経営者）	・今後の発注工事では、めばしい物件がない。
		建設業（役員）	・首都圏以外は依然として受注競争が厳しく、今後の発注量次第で更に価格競争が激しくなると考える。
		輸送業（配車担当）	・現在の状態がしばらく続くと思われるが、北朝鮮などの状況変化がみえず先行きに対して不安材料がある。
		金融業（融資担当）	・企業の投資意欲は依然として高く、資金需要も相応にある。製造業の設備更新のための投資や小売業の改装投資など、需要に基づいた前向きな投資は続くと考えられるが、総選挙後の政治状況や政策の変化は流動的であり見極めが難しい。
		不動産業（経営者）	・個人客に対して期待感があつたが、意外に話が少ない。また、同業者によると法人関係も少し動きが悪いという話である。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今月も前年売上を上回ることができなかった。月の前半は好調だったが、衆議院解散が固まった20日以降から、広告出稿量はブレーキがかかったように失速している。
		税理士（所長）	・変わらないと回答したが、実際にはわからないというのが正直なところである。総選挙が控えており、一時的には社会は活気付くと考えられるが、総選挙の結果によってはいろいろな政策が見直しとなる可能性もある。そうなると公共工事やいろいろな政策が一時中断する、あるいは滞ることになると、マイナスに転じる可能性がある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・世界情勢の不安定さと国内の政治状況によって、設備投資に対する意欲が下がる可能性がある。
		金融業（融資担当）	・秋からの紅葉シーズンに向けて、観光業界や飲食業は期待している。しかし、総選挙で客の動きは鈍くなると考える。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・就職者の数が増える状況が、この先もしばらく変わらないと考える。
		人材派遣会社（役員）	・有効求人倍率の高さを背景に、いろいろと探りを入れて比較検討する求職者が多い。
		求人情報誌制作会社（編集者）	・大きな雇用につながる動きがない。
		職業安定所（職員）	・業績が良くなるという事業所がある一方で、依然として先行きを不安視している事業所がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・当月は、製造業において人手不足感が強く表れる数字となっている。人手不足が続いている状態ではあるが、バブル期のように手放して賃金を上げるとか、労働条件を上げるといった状況にはなっていない。人手不足でありながら労働条件の改善については、なかなか進まないというのが現状である。企業としては先行きに何らかの危惧があり、慎重になっているようである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人のオーダーがあっても紹介できる人材が少ない。その中から更にマッチングさせるため、状況はより厳しくなっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・9月に入ってから、次年度採用者向けの合同企業説明会が大学内で実施される。その問い合わせが例年より多く、次年度に向けた動き出しが早くなっている。
		-	-
	x	-	-

### 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連  (近畿)		コンビニ（経営者）	・近くに2件のホテルがオープンするのに伴い、喫茶店などの競争はあるが、全体的には来客数が増える。	
		通信会社（社員）	・新しいサービスが他社に対するアドバンテージとなれば、状況の改善が期待できそうである。	
		競輪場（職員）	・例年、年末年始は良くなる傾向にあるが、今年はどの程度伸びるかが不透明である。	
		商店街（代表者）	・季節が変わって秋物商材が動き出すことで、客単価が上がる。	
		百貨店（売場主任）	・当エリアはオーバーストア気味であったが、新規出店が一段落した。店舗の整理が進んだ影響が大きく、食品への信頼の高さも含めて、当店を選んでもらっているという実感がある。	
		百貨店（企画担当）	・前年の12月までは、インバウンド売上は減少傾向であった。現在のインバウンド売上の情勢が急変しない限り、前年比の伸びが一巡する12月までは、店舗売上の増加が続く。	
		百貨店（営業担当）	・一部の超優良顧客による宝飾品や美術品の購入は、より多くなると同時に、高額化が進む。衆議院選挙や海外情勢による影響は、今のところ考えられない。	
		百貨店（服飾品担当）	・衣料関連で長らく不振であったスカートが、今月はかなり伸びているなど、スニーカーなどのカジュアル感のあるファッションから、細いラインのエレガンス傾向にややシフトする傾向がみられる。また、ファー素材などの暖かみを感じる素材が、シーズン当初から動きをみせており、気温の低下に伴うファッション商戦の伸びが期待できる。	
		百貨店（マネージャー）	・北朝鮮情勢がどのように展開するかが不透明なほか、国内では来月に衆議院選挙が行われる見通しである。来月は様子見の姿勢が予想されるが、それ以降は読めない状況である。	
		百貨店（外商担当）	・インバウンド売上が更に増加を続ける見込みであるほか、衆議院選挙の結果による先行きへの期待感で、株価の上昇が予想される。	
		百貨店（販促担当）	・諸外国の極端な懸念材料はあるものの、衆議院選挙の決定に伴って景気浮揚策が強化されるほか、今月の動向からも、消費マインドの上昇に期待できる。イベントの多い時期であり、買物の納得性や楽しむ雰囲気提供が、リアルな店舗としての勝負どころである。	
		スーパー（企画担当）	・年末も含めた希望的観測となるが、消費意欲を高めるような仕掛けや売場展開を行い、売上の増加につなげていくことが重要である。ポジョレーヌーヴォーやお歳暮、クリスマスケーキ、おせち料理などの予約獲得にも注力する。	
		コンビニ（経営者）	・秋から冬にかけて、プレミアム系の新製品が相次いで登場するため、客単価の上昇が期待できる。	
		コンビニ（店員）	・秋から冬にかけてはイベントが続くため、販売促進に力を入れていく。	
			衣料品専門店（営業・販売担当）	・制服の新規問い合わせや、引き合いが増加している。
			家電量販店（店員）	・ボーナスの支給時期と歳末セールが重なる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・新車販売が少し好調である。
		乗用車販売店（販売担当）	・年末に向けて、自動車業界では活気が出てくる。客と話をしているにもかかわらず、景気自体が上向きとはいえないものの、購入する意欲は非常に高い。
		自動車備品販売店（営業担当）	・新規の取組に手ごたえがある。
		高級レストラン（スタッフ）	・秋から冬にかけてイベントシーズンに入るため、来客数、客単価共に上向くことが予想される。
		高級レストラン（企画）	・宴会受注の伸びに加え、秋を中心に、宿泊の客室単価がアップする動きもみられる。
		一般レストラン（経営者）	・最近では極端な天候に左右されることも多いが、中間価格帯で、中規模から大口のターゲット向けの商品を強化するほか、年末商戦への広告宣伝も強化することで、新規客を含めた顧客の獲得を目指す。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・残暑が厳しく、来客数が減少した。今後、気温が安定すれば売上も安定してくる。
		観光型ホテル（経営者）	・10月以降も、団体客の先行予約は好調である。個人客も9月に比べれば動くはずであり、団体客の目減りにも対応できる見込みである。
		旅行代理店（役員）	・北朝鮮のミサイル問題の先行きが不透明であるものの、状況に慣れてきたこともあり、年末年始は旅行需要が伸びる。
		タクシー運転手	・引き続き、神戸市では開港150周年のイベントが用意されている。外国からの観光客の増加を含め、国内でもタクシーを利用する動きが出てくる。
		タクシー運転手	・京都市内は、これからお祭りや紅葉の季節になるので良くなる。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・年末に向けて仕事量が増え、残業手当が多くなる。
		商店街（代表者）	・客に聞くと、生活防衛で安い物しか買えないとの声が聞かれる。このような状態が10年以上続いている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・夏物衣料の低迷を、秋物商材で少しはカバーできそうであるが、衆議院選挙の影響で平行線となる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンドの動きが落ち着いたほか、国内客の消費も落ち込む。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・客の様子をみると、動く要因がある時とない時の差がどんどん広がっており、様々な要素の影響で極端な動きにつながっている。また、豪雨や台風、気温などの影響も大きく、全体的に良いのか悪いのかが、分からなくなることがある。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・世界情勢がどのように変化するかによって、大きく影響を受ける。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・良くなることを願っているが、世界的にみると不透明感がある。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・前月と同様に、売上は横ばいである。気候も良くなるため、贈答品の動きに期待したい。
		百貨店（売場主任）	・売上全体は、外国人客の消費で伸びている一方、地元消費者が中心となる食品部門の売上が低迷しており、継続的に売上が伸びている状況とはいえない。
		百貨店（売場主任）	・しばらくは、身の回り品や高額品の売上は堅調に推移するものの、衣料品の動きは回復に至っていないため、景気回復とはいえない。
		百貨店（営業企画）	・衆議院選挙の影響が不透明である。新党が躍進した場合、経済、財政が停滞する恐れがある。
		百貨店（マネージャー）	・今月は売上の増え過ぎた感が否めないため、希望としては現状を維持していきたい。好調が維持できる要素としては、インバウンド売上の増加、富裕層の購買意欲の上昇が挙げられる。中間層については、気候要因に左右されるほか、衆議院選挙の結果次第では消費意欲の減退の可能性もあるため、慎重にみている。
		百貨店（サービス担当）	・年内は傾向に変化はないと思われる。海外情勢や衆議院選挙などの不安定要素が懸念材料であるものの、創業記念催事などの強化により、前年実績を確保できる見通しである。
		百貨店（マネージャー）	・米国や北朝鮮問題、国内の政情が混とんとするなか、消費税増税の問題がにわかに浮上したことで、各世代での貯蓄志向や、消費の縮小傾向が更に進むと思われる。また、11月以降は中国を中心としたインバウンド需要も一巡し、全体的には停滞気味となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場マネージャー）	・衆議院選挙や北朝鮮問題、中国人旅行者の当局による規制など、先行きがどうなるかは読みにくい。野党連合の影響で、消費税増税問題などの経済政策も争点となり、より効果のある施策が提案、実施されることを期待している。
		百貨店（宣伝担当）	・国内の富裕客の購買は、引き続き旺盛であるが、残暑が続いており、婦人服や紳士服の季節商材の動きが鈍い。また、米国や北朝鮮の情勢によっては、外国人旅行者が減少するため、インバウンド売上への影響が心配される。
		スーパー（店長）	・衆議院選挙など、政情が不透明な状況もあり、今後の予測は難しい。
		スーパー（店長）	・前年と同じことをしていても販売点数は伸びないが、今のところは前年を踏襲している。
		スーパー（店長）	・近隣に競合店の出店があり、価格競争も激しくなっている。総合スーパーや食品スーパーにとって、まだまだ厳しい状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・来客数が安定しており、外部環境の変化による影響も小さい。
		スーパー（経理担当）	・衆議院選挙の結果によるが、消費税増税の議論次第で消費に影響が出る可能性がある。税率の引上げが確定すれば、駆け込み需要が早い段階から徐々に出てくる可能性がある。逆に凍結となれば、心理面での好影響が考えられる。
		スーパー（社員）	・当社の主力商品である食品部門での、客の消費意欲は堅調である。秋から大型イベントを計画しているため、当面は現在の状況が維持できると期待している。
		スーパー（開発担当）	・具体的な景気対策はなく、衆議院選挙も行われるため、あまり大きな動きはない。
		コンビニ（店長）	・運動会シーズンが終わり、連休も終わったので、景気は落ち着く。
		コンビニ（広告担当）	・2～3か月先の年末まで、衆議院選挙などはあるものの、景気が大きく変わるほどの要素はない。今後は、消費者の財布のひもは固い状態が続く。
		コンビニ（店員）	・飲料水やアイスに代わり、おでんなどの温かい商品の売上が伸びてくる。
		衣料品専門店（販売担当）	・現状の消費の状況は、季節に関係なく続きそうである。
		家電量販店（経営者）	・財布のひもが緩むような要素は見当たらない。特に年金生活者の中で、将来の不安が拭えない人が多いと感じる。
		家電量販店（企画担当）	・国際情勢や衆議院選挙の結果のほか、新党の今後が注目される。また、用途の変更を表明することで、いよいよ消費税率を10%に上げる可能性が高まったため、しばらくは様子見の動きが続く。
		乗用車販売店（経営者）	・特にプラス要因は見当たらない。
		乗用車販売店（販売担当）	・国際情勢や政治の不透明感はあるものの、市場は落ち着いていると感じる。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	・健康食品や自然食品、生活必需品の、インターネットでの購入に対する各種の整備が進み、時間の融通も利くことから、消費者がインターネット通販にシフトしている。
		その他専門店【食品】（経営者）	・12月に向けて、お歳暮や年末の宴会などで売上は伸びていくものの、前年よりも消費が増えるとは思えない。
		その他専門店【宝石】（経営者）	・もうすぐ衆議院選挙が行われるが、与党が過半数を獲得すれば、今の状態で推移する一方、過半数を取れなければ消費面にも影響が出てくる。
		その他専門店【宝飾品】（販売担当）	・緩やかな円安の動きや、突発的な金相場の変動が、低い購買意欲に変化をもたらすとは考えにくい。
		その他小売【インターネット通販】（企画担当）	・消費税増税は予定どおり進める一方で、財政健全化などの動きは不透明なため、将来の生活に不安を抱えたままの状況が続く。
		その他小売【インターネット通販】（オペレーター）	・新ブランドや新商品の出る予定がないため、変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・10月からの人件費、食料品の値上げもあり、良くなる要素はない。
		一般レストラン（企画）	・政治、経済共に不安要素が多く、先行きは不透明である。また、最近では材料費が徐々に上昇しているため、これも懸念材料となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・最低賃金は上がっていくが、全然景気が良くなっている感じはない。賃金を上げてもよいのかと思うぐらいに、良い材料がない。
		観光型ホテル（経営者）	・宴会の件数が伸び悩み、料理の単価も下がる一方である。
		観光型ホテル（経営者）	・天候の影響があるのか、客の入込が非常に少なくなっている。今後は衆議院選挙が行われるなど、政治の不安定さを考えると良くならない。
		都市型ホテル（支配人）	・北朝鮮情勢や政局などの不安定要素があり、今後の景気は読みにくい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の受注は例年並みに推移しているものの、規模が小さく、収入面では厳しい。宿泊は単価こそ若干落ちているが、稼働率は維持できている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、食堂は売上の微増傾向が続くそうであるが、宴会はこれから忘年会、新年会の販促強化の時期になるため、まだ見込みが立たない。
		都市型ホテル（管理担当）	・今月並みの好調が続くと思われるが、北朝鮮のミサイル問題の影響がどう出るか、また中国による訪日団体旅行の制限による影響が不透明である。
		都市型ホテル（管理担当）	・旅行会社経由の国内客の減少が、前年から続いている。回復の動きはみられないが、インターネット経由の観光客、特にアジアからの客の増加で補っている。
		都市型ホテル（客室担当）	・秋の行楽シーズンに入ってくるが、まだまだ続くホテルの新規開業や、宿泊料金の安い民泊へのシフトもあり、訪日外国人の宿泊は落ち込む。
		旅行代理店（支店長）	・北朝鮮と米国間の問題は解決のめどが立っておらず、好転する材料がない。お客様は、今旅行に行かなくてもよいといった考え方であるため、状況は大きく変わらない。
		タクシー運転手	・衆議院選挙の影響が、どう出るのかが不透明である。
		タクシー運転手	・一般客や企業関係のほか、観光客による予約にも大きな変化はない。
		通信会社（経営者）	・北朝鮮問題、衆議院選挙の動向次第となる。
		観光名所（企画担当）	・状況は大きく変わっていない。ここから悪化することだけは、何とか避けたい。
		遊園地（経営者）	・顧客動向をみる限り、営業施策に対する反応はまずまずで、閉塞感はない。ただし、業績そのものに大きなインパクトが出るほどではなく、まだまだ消費に対しては慎重な様子である。
		競艇場（職員）	・全国的な売上は電話投票が好調であるものの、全体のパイに大きな変化はない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の各種シリーズは開催されないが、11～12月には人気歌手、グループのコンサートが開催されるため、例年どおりの集客を期待している。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・レジャー消費の増加につながりそうな材料に乏しい。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・現在は生徒数が安定している。まだ2学期ということもあり、高学年が退会するには少し早い。今後の低学年の入会に期待したい。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・カフェなどの複合的な取組で売上の増加を目指す、レンタル、販売共に苦戦が続いているため、店舗の改装を強化している。
		住宅販売会社（経営者）	・顧客の動きからも、契約率に変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・分譲マンション業者は大手が中心となっている。比較的体力があり、販売状況が悪化しても販売価格を大幅に下げることはないため、急激な市況の変化はない。
		住宅販売会社（総務担当）	・衆議院選挙を経て、年末に向けてやや持ち直しを期待しているが、好材料が見当たらないため、現状維持が精一杯である。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関や不動産業界の動きに変化はみられない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・今後、新築住宅の市場は縮小していくほか、空き家問題も出てくる。政府は新築取得者に対する優遇策は取らないため、需要の伸びは期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔情報誌〕 (編集者)	・マンション価格が下がる要因は見当たらず、都心マンションが市場をけん引する状況が続く。ホテル事業者との土地取得競争の激化により、開発会社が将来の事業計画を見直す懸念もある。
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・今月、近隣に新しい商業施設ができた。大きなモールではないが、いくつかの専門店が入っている。大き過ぎると年配客が迷子になるといわれており、買物のしやすい規模となっている。2～3か月先はオープンして初めての歳末商戦となり、あちこちでセールが始まるため、路面店では期待できない。
		一般小売店〔事務用品〕 (経営者)	・衆議院選挙などで浮ついた時期となるのが予想されるほか、じっくりと商談できる案件も乏しい。
		一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・来客数、販売量共に、前年に比べて少しずつ減ってきている。数か月後は衣料品の売れる冬となるが、1年で最も単価の上がるシーズンとはいえ、現在の状態から考えると、景気の回復は全く期待できない。
		一般小売店〔花〕(店員)	・理由は不明であるが、来客数がやや減ってきているため、この先も売上アップは望めない。
		百貨店(売場主任)	・インバウンドが好調に推移し始めてから、ほぼ1年が経過し、これまでのような売上の伸びは期待できない。また、中国政府が日本への旅行に制限をかけたこと、不安材料の1つである。国内客については、依然として消費に積極的とはいえないため、マイナス要素の方が大きい。
		百貨店(営業担当)	・中間層の慎重な購買動向が続くようなほか、前年の12月から免税売上が好調となった、インバウンド売上の伸び率の低下が予測される。また、北朝鮮問題による株価、為替の変動も、景気に対するリスクと考えられる。
		百貨店(商品担当)	・衆議院選挙の影響による消費の抑制ムードと、インバウンド需要の一巡のため、全体的な消費の鈍化が懸念される。
		百貨店(販売推進担当)	・前年の冬から固定客化が進んで、買上金額も上がっているため、ここへきて更に前年を上回る傾向になるとは思えない。固定客向けの販促もやり尽くした感があり、販促で売上を押し上げることが困難になっている。また、北朝鮮問題などで景気が下振れしている感も否めない。
		スーパー(店長)	・人口減少下にあって、食品スーパーの店舗数の増加、コンビニや通販といった異業種との競争激化など、少ないパイの取り合いがますます激しくなる。
		スーパー(管理担当)	・消費税増税がいよいよ現実味を帯びるなど、景気が好転する材料はない。また、食品だけではなく、原材料などの値上がりも懸念される。
		コンビニ(店員)	・飲み物があまり売れなくなる。
		家電量販店(店員)	・10月は家電の販売量が低迷する傾向がある。
		家電量販店(人事担当)	・寒さが強まるまで、暖房関連は動かず、スポーツなどの大きなイベントも少ないため、販売量の増加が見込めない。
		乗用車販売店(営業担当)	・検査の不備に関する報道があり、客の態度などをみても、景気が良くなるとは考えにくい。
		住関連専門店(店長)	・商談の数は減っていないが、熱心で消費意欲のある顧客が減少していると感じるため、失注が増える。
		一般レストラン(経理担当)	・良くなる材料が見当たらず、ここへきて衆議院選挙を行う理由も理解できない。
		一般レストラン(店員)	・運動会シーズンの影響もあり、来客数、販売量共に増えているが、寒くなると客足が減少する。
		観光型旅館(経営者)	・例年の予約の動きよりも、少し遅い気がする。
		都市型ホテル(総務担当)	・中国政府が、日本への団体旅行の人員に制限をかけたことから、今後は中国からの宿泊客の減少が見込まれる。また、下半期の宴会の予約も前年を下回っている。
		旅行代理店(店長)	・良くなる雰囲気がない。
		通信会社(企画担当)	・大規模なゲームイベントの来場者数が若干減っており、ゲームソフトの販売本数も下振れ傾向にある。
		テーマパーク(職員)	・消費税増税が打ち出されたことにより、消費の冷え込みが間違いなく起きる。前回の増税と同じく、また税収は減る。同じことを何度繰り返すのかと呆れてしまう。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕 (職員)	・天候不順や災害の影響で、生鮮品を中心に物価が上昇気味である。
		その他サービス〔マッサージ〕 (スタッフ)	・オイルマッサージで服を脱ぐため、暑い時期は来客数が増加するが、寒い時期になると来客数は減少する。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・衆議院選挙のほか、北朝鮮の動向が不透明であるなど、多少の不安材料がある。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・消費税増税に向けた動きで、悪影響が出る。
	×	スーパー（店長）	・単価がどんどん下がる傾向にある。
	×	衣料品専門店（経営者）	・9月に入っても商店街への来街者が回復しない。さらに、当地区ではトリプル選挙となり、消費者の購買意欲がそがれるため、年内は絶望的である。
	×	衣料品専門店（経営者）	・天候や消費者の不安要素が大きいのか、9～10月にかけて、来客数が大きく減っていることが気になる。悪い状況は秋冬のバーゲンセール時期まで続きそうである。
	×	観光型旅館（管理担当）	・北朝鮮問題に対する日本、米国の対応と、中国、ロシアの温度差、米軍の北朝鮮への挑発とも取れる行動など、国際情勢の先行きが不透明である。また、国有地売却関連や獣医学部新設問題をうやむやにするような衆議院選挙など、国民の方を向いていない政府への不信感も増している。いずれにしても、好景気に結びつく要素は見当たらない。
企業 動向 関連  (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・現在の事業が順調となり、需要と供給のバランスが取れ、売上、利益共に増加する予定である。新規のバイオマス関連事業の準備も次第に進みつつあるため、先行きに期待できる。
		化学工業（企画担当）	・年末年始の需要期を迎えるため、一時的に販売状況が改善する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・輸出の比率はまだ低いですが、当社の成長は海外市場にかかっている。自社ブランドで勝負できる点も、海外市場は魅力である。為替の円安基調が追い風となるが、不安定ながらも為替の環境は明るいので、やや良くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い件数、受注共に増えている。
		輸送業（商品管理担当）	・お歳暮のシーズンになるので、販売量が増える。
		通信業（管理担当）	・衆議院選挙により、若干良くなる。
		広告代理店（企画担当）	・消費の低迷が少し改善されている。景気の回復が徐々に個人消費にも広がっている。
		食料品製造業（営業担当）	・10月にはハロウィーンのイベントがあるため、例年よりも盛り上がると思うが、販売量はあまり変わらない。
		食料品製造業（経理担当）	・10月は衆議院選挙もあるため、景気の動きは当分変わらない。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量には、特に変化がない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・顧客のほとんどが、先行きに不安を感じている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年末から年度末にかけて、例年は数字が少しずつ上向きになっていくが、今年はまだ良い話が聞こえてこない。例年並みか、もしくは少し下がる可能性もある。
		化学工業（管理担当）	・出荷数量は好調のまま推移する。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・注文の内示が出ているため、しばらくは受注の多い状態が続く。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・中小企業の経営者にとっては、夏のボーナスや、今後の冬のボーナス、社員の給料などを上げられる状況ではない。
		金属製品製造業（経営者）	・10～12月期の受注は、当初の内示から大きな変化はなく、年内はこのままで推移する。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・衆議院選挙で政権が代わることがなければ大丈夫である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・世界の政治、経済情勢が混とんとしているため、日本での生産の動きはやや良くなる。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・年末商戦では有機ELテレビの本格的なPRが予想されるため、テレビの単価を引き上げる効果は見込まれるが、景気の変化につながるとはいえない。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・受注量が増えるような新商品の企画も少ないため、大きくは変わらない。
	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・大手の靴卸業者が外資企業の子会社となったため、今後の取引が不透明である。	
	建設業（経営者）	・今月と同じような状況が続きそうであるが、季節的な動きとして、受注はやや増える。	
	建設業（経営者）	・東京の一極集中が進むなか、今後も技能労働者や監理技術者不足の状況で、競争が繰り広げられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・年末や来春に向けての案件に期待するが、人材不足によって思うように受注できない可能性がある。
		金融業（副支店長）	・先行きの受注状況をヒアリングしても、良い回答が聞かれない。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・北朝鮮問題や衆議院選挙など、まずは国内外の政治情勢が落ち着かなければ、景気回復に本腰を入れられない。当面は今のようない進一退の状況が続く。
		金融業（営業担当）	・何もしなければ、良い企業は他社に取られてしまう。良くない企業はどこへも行けないので、安い金額でも仕事を受けるために、体力が低下し、最後には倒産状況となる。しかし、これが今の中小零細企業の生きる道である。
		不動産業（営業担当）	・神戸からの企業の撤退が将来的にも続くと思われるため、賃料の上昇や空室率の低下は困難である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・ショッピングモールのオープンで折込件数は増えているが、全体的には減少しているため、回復しているとは思えない。
		広告代理店（営業担当）	・紙媒体、Web媒体共に、広告の動きが増えてきたものの、安定しているとはいえない。
		司法書士	・景気変動をもたらすような要因が見当たらないので、現在の状況が続く。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・大きく変わる要素がない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・北朝鮮問題は予断を許さない状況にあるが、関西の景気自体に影響が感じられるかといえば、まだ実感はない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・動きに変化がなく、年内は同じような状態が続く。
		食料品製造業（従業員）	・年末に向けては、商品の動きも良くなる。ただし、衆議院選挙の話題も出てきており、消費者にとっては良い話と悪い話が混在しているため、ますます財布のひもが固くなるような気がする。
		繊維工業（総務担当）	・催事での経費分を販売価格に上乗せした結果、単価のアップにつながり、購入層が限られてきている。
		繊維工業（団体職員）	・今後は需要期を迎えるが、全体的には微減傾向となることが懸念される。
		繊維工業（総務担当）	・過去に経験した価格破壊の再来を感じている。仕入先からは値上げを告げられる一方、販売先からは値下げ要請を受けており、逆戻りの様相を呈している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社は注文に応じた仕様の電子装置を製作しており、納品までに一定期間を要する。現在の引き合いが弱ければ、半年、1年後の受注も弱くなる。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・航空機の動きが鈍化しており、大きな期待は寄せられない。中小企業の設備投資動向は低調に推移している。
		輸送業（営業担当）	・来月の運賃値上げで荷物量が減り、容量オーバーが解消されることで、現状に合った労働環境となる。
		輸送業（営業担当）	・土日の配達料金の有料化で、今後は配達件数が少なくなる。
		広告代理店（営業担当）	・衆議院選挙以降の広告出稿の見通しは不透明である。
		経営コンサルタント	・政治が不安定になっており、衆議院選挙の結果次第では、戦争などの不測の事態をより警戒する必要が出てくる。これほど読めない状況下で、積極的に投資をする経営者は少ない。
		経営コンサルタント	・本来は秋商戦で、秋の需要が盛り上がるはずであるが、気候の変動などで実質的な収入が増えない。今後は各種の負担も重くなっていくが、少しは盛り上がってほしい。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・ターゲットとする市場の変更がうまく進んでいない。
	×	金属製品製造業（営業担当）	・鋼材価格は値上がり基調であるにもかかわらず、大手自動車メーカーの下期の鋼材取引価格が値下がりしたことを理由に、同様に値下げ要求をしてくる取引先が多い。板挟みとなり、採算が大幅に悪化する事態が予想される。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・政府の経済対策が不十分である。
雇用関連		-	-
		人材派遣会社（支店長）	・年末に向けて、動きが活発化しそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(近畿)		人材派遣会社(役員)	・派遣業界では、ここ1年は雇用の移動が活発になると予想される。
		人材派遣会社(営業担当)	・現在、求人数が増加傾向にある。労働契約法や労働者派遣法の改正で、今後の話をスタッフやクライアントにすることが増え、派遣スタッフの入れ替わりも多くなっている。それに伴い、今後もしばらくは求人数が増え、景気もやや良くなる。
		職業安定所(職員)	・受注や業績が好調との声が多い一方、人材不足で受注を抑えており、早急な人材確保が必要との声もある。事業所から今後の展望について聞いたところ、やや明るいという回答が全体の約4割を占めている。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・年末に向けて多忙な時期に入り、引き続き求人数が増える傾向にある。
		民間職業紹介機関(マネージャー)	・求人数や成約数のトレンドから、やや良くなる。
		人材派遣会社(経営者)	・一過性かもしれないが、IT関連の雇用、派遣に一服感が出てきている。関西景気のけん引役として今後も期待していたが、期待外れとなっている。この状態は10月一杯まで続き、年内は短期雇用が中心となる。
		人材派遣会社(営業担当)	・有効求人倍率は依然として高いが、人手不足の業界では時給を上げてても人の集まりが悪い。今後も求職者と求人企業のミスマッチは続きそうである。
		新聞社[求人広告](管理担当)	・前月と同様に、一部の人手不足の業界では求人が増加しているものの、景気全体の方向性を示すような兆候は、新聞求人にはみられない。株価も2万円台を回復し、政権の支持率もやや上昇しているが、北朝鮮と米国をめぐる地政学リスクは、いつ暴発するか余談を許さず、景気の方角性は不透明である。
		新聞社[求人広告](担当者)	・年末に向けても、個人の消費意欲は上向かない。
		職業安定所(職員)	・9月30日から最低賃金の大幅な改定が予定されており、労働者は恩恵を受ける一方、社会保険の関係で就労調整を行うパート労働者が増えると予想される。また、パート労働者を多く抱える小売業や飲食業を中心に、人件費の上昇で経営が苦しくなる事業者も出てくる。
		民間職業紹介機関(職員)	・建設日雇求人の動向は、長期にわたる横ばい傾向にあるが、事業所からは前年よりも仕事量が減っているとの声が聞かれる。社会保険の適用強化や、雇用保険の適用厳格化に伴う雇用抑制に、人手不足も加わり、企業心理が冷え込む要因になっている。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・更に良くなる理由や、悪くなる理由が見当たらないため、当面は現在の状態が続く。
		学校[大学](就職担当)	・企業に求人意欲はあるものの、今後の景気が不透明であるなど、不安要素がある。
		学校[大学](就職担当)	・衆議院選挙が吉と出るとどうか、分からない。
		アウトソーシング企業(管理担当)	・例年は入ってくる仕事が、最近は入らないことも増えているので、この状況が続けば悪くなる。
	学校[大学](就職担当)	・全体的に求人数が多いので、景気が良いように感じるが、一部の業界では既に絞る動きが出ており、その影響がほかの企業にも波及する。	
	x	-	-

## 8. 中国(地域別調査機関:公益社団法人中国地方総合研究センター)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (中国)		テーマパーク(業務担当)	・冬の大型イベントが始まり、来園者数増加が期待できる。
		一般小売店[眼鏡](経営者)	・北朝鮮情勢や総選挙などの不確定要素はあるが、自民党が安定政権を保てば株価も上昇して内需が拡大する。
		百貨店(広報担当)	・地元プロ野球チームの日本シリーズ進出とその結果次第では、前年以上に消費者の購買意欲が高まる。
		百貨店(営業担当)	・店全体の来客数が前年を上回り、婦人服の動きも良く、購入客数が前年を上回っている。
		スーパー(店長)	・地元プロ野球チームのリーグ優勝などでの経済効果が周囲で見受けられ、しばらくは継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・近隣で新築工事を行っており、工事客が増えて売上は良くなっていく。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は前年を上回っている。
		コンビニ（支店長）	・全体売上は改善傾向である。
		家電量販店（販売担当）	・冬商戦と決算に期待できる。
		乗用車販売店（統括）	・新型車の販売による販売増が見込まれる。
		乗用車販売店（業務担当）	・小規模ながら新商品の投入が続く。
		乗用車販売店（店長）	・サービス在庫が前年並みまで回復しているので、来客数が増加して新車の販売量は伸びる。
		乗用車販売店（営業担当）	・特別仕様車の発売で来客数が増え、景気の回復が見込める。
		自動車備品販売店（経営者）	・冬季商材の最需要期なので今月よりは良くなるが、前年比では期待できない。
		その他専門店〔土産物〕（店長）	・地元で水揚げされる新鮮な魚が売りであるが、ワタリガニなど冬にかけて旬を迎える魚介類が多く、それ目当ての客が増える。周りの広大な畑に咲くコスモスの見頃がやや遅れているが、これから満開になり多くの観光客が訪れる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・年末に向けセールやイベントが増える時期であり、来館につながる施策をどのように打っていくかによって景気は変わってくる。
		観光型ホテル（営業担当）	・秋の観光シーズン到来で販売量が増加する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・地元プロ野球チームが勝ち進めば客の消費マインドが上向く。
		都市型ホテル（企画担当）	・10月には総選挙が予定されており、政権の状況次第では消費喚起となり、年末に向けてイベントが多くなれば前年並みの集客は見込める。
		都市型ホテル（企画担当）	・当館と直結している駅の南北自由通路が開通し、新たな商業施設もオープンするので周辺エリアの流動人口が増加する。
		通信会社（企画担当）	・年末に向けて新料金体系と新サービスの提供が始まる。
		テーマパーク（営業担当）	・秋の行楽シーズンから冬のイルミネーションと続き、入園者数の増加が見込まれる。
		競艇場（職員）	・11月にはG3競争があるので、電話投票や協力他場の売上増加が見込める。
		住宅販売会社（営業担当）	・年末に向けて販売量が伸びる。
		住宅販売会社（営業担当）	・冬季に入れば客の動きが活発になる。
		商店街（代表者）	・隣接する駅前通りの空き店舗率は改善され、飲み屋街となって夜の動きはあるが、当商店街のにぎわいにはほとんど影響がなく、昼間の通行量が増えないと変化はない。
		商店街（理事）	・総選挙が行われることで消費者の生活に変化が生じる。
		商店街（代表者）	・10月に入れば観光客数が増加するが、地元客に節約志向が強まることが懸念材料である。
		商店街（代表者）	・総選挙期間中の商売は厳しくなり、結果によっては消費税の問題を含め先行きの景気がやや悪くなる可能性がある。
		商店街（代表者）	・客の買い控えが目立ち、人から譲り受けたものの修繕依頼が増加している。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・一定数の買い回り客がいるので、来客数に変化はない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・ここ数か月、売上と来客数の前年比に変化がない。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・景気がすぐに良くなることはないが、商品が売れ続けているので悪くもならない。
		百貨店（経理担当）	・前年売上を達成できない月が続いているが、売上が大きく回復する見込みがなく今の状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・気温や天候で客の購買動向は大きく左右されるので、気温が大きく低下して防寒衣料が好調に推移すれば、11～12月商戦は明るい兆しが見えてくる。その一方で北朝鮮問題や株価下落で消費マインドが冷え込む可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・近隣に食品を中心とするスーパーが2店舗開店するが、客の食に対する消費が増える気配がないなかでの競争激化の影響が懸念される。復調の衣料品がどこまで前年数値を維持できるかが重要になる。
		百貨店（売場担当）	・仕入元各社からの商品供給が大きく減ってきているため、特に特売に対しては長年納品があったものがなくなってきており、しばらくすると店頭のお買得感が薄れてくる。
		百貨店（購買担当）	・総選挙結果で客の動きは大きく変わるが、客が要望をつかめておらず、衣料品関係もヒットアイテムがないため厳しい状況は続く。
		百貨店（売場担当）	・地域の商業環境に大きな変化はなく、現状が継続する。
		百貨店（外商担当）	・来客数を増やすための好材料が少なく、当面は現状が続く。
		スーパー（店長）	・景気が大きく変化する材料は見当たらない。
		スーパー（店長）	・ここ半年以上、来客数が前年の97%、客単価は98%で推移しており、現状が続く。
		スーパー（店長）	・ここ数か月間の客の動きをみると、景気が上向きになる要素が見当たらない。
		スーパー（総務担当）	・客は特売商品や安価商品に対しては動くが、通常商品の販売量は伸びない。
		スーパー（業務開発担当）	・客の節約志向の定着が影響し、加工食品や菓子類の定番商品も販売量は前年並みでも1品単価が低下する。また、高齢化の影響で小ロットのもの割合が高くなる。
		スーパー（販売担当）	・催事や特売日には前年を上回る集客があり、ここ数か月はこの傾向が続いており、消費者の購買意欲は衰えていないが、平常時の来客数と客単価は厳しい状況が続く。地方では所得が上がらないため、一般家庭の懐事情はかなり厳しくなってくる。
		スーパー（財務担当）	・手取り収入が増えていないため、節約による客単価の前年割れが続く。
		スーパー（管理担当）	・分野は異なるが新規出店があり、来客数と売上の増加は見込めない。
		スーパー（販売担当）	・総選挙の影響で客の動きが鈍くなるが、その後は回復してくる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・大きな環境変化はなく、主力商品の販売量の伸びも鈍化しているが、天候によってはファーストフードと飲料の販売量の増加が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・スーツの動き、来客数、客単価に変化はなく、今後も現状が続く。
		家電量販店（店長）	・景気が良くなる要素はなく、客の財布のひもは一層固くなる。
		家電量販店（店長）	・来客数が増加する。
		家電量販店（店長）	・ここ数か月、来客数は増加しているが、売上の上昇はない状況が続いており、業界的にもマーケット縮小傾向のため上向き気配はない。
		家電量販店（企画担当）	・政権交代があれば景気が後退する。
		乗用車販売店（営業担当）	・客は出費に対して消極的であるため、販売台数の推移が前年を下回る状況が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年10～12月は客の動きが鈍い傾向であるが、新型車に注目が寄せられてくる。
		自動車備品販売店（経営者）	・販売量が増加する要素はなく、もうかる仕事は全てメーカーが優位なので大きなプラスは期待できない。
		住関連専門店（営業担当）	・イベントがない月は来客数が減少する。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・来客数の増減を判断する要素がない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・商店街の空き店舗が減少したが、廃業する店舗が出ており、不景気だけが原因ではないが、人口減少や消費流出が地域小売業を衰退させる。
		高級レストラン（宴会サービス担当）	・予約状況はほぼ前年並みであるが、地元プロ野球チーム優勝に絡んだフェアの開催で来客数の増加が見込める。
		一般レストラン（経営者）	・地方中小企業では生産性向上への障害が多く、賃金上昇が難しい。
		スナック（経営者）	・年末はいつもより客の動きはあるが、景気の良かったころとは比較にならず、地方での当業界の景気は全然良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総支配人）	・北朝鮮に関連した核ミサイル問題や10月に投票が予定される総選挙の影響も懸念され、景気の先行きは不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・世界情勢や総選挙など景気回復に良い材料はないので、客の生活防衛意識は高まる。
		旅行代理店（営業担当）	・景気がプラスに振れる要因はなく、総選挙も絡んでくるので旅行需要の拡大は見込めない。
		通信会社（社員）	・今月は販売量がやや良くなっているが、大きな変動はない。
		通信会社（営業担当）	・景況を左右する要因がない。
		通信会社（工事担当）	・客は設備投資ができない状況である。
		テーマパーク（管理担当）	・地方の個人消費は微減傾向が続く。
		ゴルフ場（営業担当）	・10月から繁忙期に入り、予約状況は例年並みである。
		美容室（経営者）	・人の流れが変化する要因がなく、週末に集客ができない状況は続く。
		美容室（経営者）	・新規客獲得と売上上昇につながる要因はないので短期間で景気が回復することはない。
		美容室（経営者）	・来客数の減少と客単価の低下が懸念される。
		設計事務所（経営者）	・消費税率引上げに向かっているものの、地価に安値感がないので景気回復が難しい。
		設計事務所（経営者）	・地方での金の循環は福祉のみであり、税負担の増大を感じる客は消費に向かわない。
		設計事務所（経営者）	・建築資材や人件費の変動で建築コストが上昇気味となっており、消費者の動向がつかめない。
		設計事務所（経営者）	・建築業界は人手不足で求人は活発であるが、景気が上向いている話は聞かない。
		住宅販売会社（従業員）	・将来的に景気が悪くなる材料も良くなる材料もない。
		住宅販売会社（営業所長）	・展示場への来客数が増加していかない。
		商店街（代表者）	・少子化、デフレ、オーバーストア、インターネット販売と競合して非常に厳しい状況が続くとともに、より良い商品、より安い商品を必要とときにだけ購入するという客の姿勢も継続する。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・海外からの特需注文があった前年より販売量は悪くなり、そのマイナスをカバーするのは非常に厳しい。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・会社設立などの新しい動きがなく、景気は良くならない。
		スーパー（営業システム担当）	・競合店やコンビニエンスストアの出店が止まらず、客の節約志向も高まっているため、年末商戦にはあまり期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店が増えて消費者が分散してしまう。
		衣料品専門店（経営者）	・政局が混とんとしており、少し先のことも全く予測できない。
		衣料品専門店（経営者）	・地方は景気が悪く、客の財布のひもは固いままである。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車の発売や新しい広告が始まって来客数が伸びず、現状の商談数では売上を確保できない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・当地を生かしたまちづくりが進んでいないので、流入人口が増えず元気が出てこない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	・競合店である大型ショッピングセンターが12月上旬に改装オープンを計画しており、12～1月はその影響が予想される。当店と隣接するショッピングモールと連携して、どこまで影響を最小限にできるかが課題である。
		一般レストラン（経営者）	・総選挙の影響で景気は沈滞する。
		一般レストラン（店長）	・インバウンドの減少が続き、中国がツアー客の規制をしていることもマイナス要因となる。また、総選挙が始まると来店を控える傾向にあるので、来客数の落ち込みが懸念される。
		一般レストラン（外食事業担当）	・大手チェーン店の出店で小型店が廃業しても、商圈内の席数は増加しているので競争は激しくなる。メニューを値上げして1年が経過するので、客単価によるカバーがこれまでどおりとはいかず、最低賃金の見直しで人件費が上昇し、経営に大きく影響する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・総選挙期間中は夜の客足が鈍くなる。
		タクシー運転手	・政治不安で景気は悪くなる。
		通信会社（総務担当）	・異動や引っ越しなどが増える秋の入れ替わりシーズンが落ち着いてくる。
	x	その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	・高速道路の交通量が減少して来客数も減少する。
	x	通信会社（広報担当）	・価格の安さのみで客は動くので景気の回復は見込めない。
企業 動向 関連  (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車の立ち上がりがあり、忙しくなる。
		化学工業（経営者）	・車向け樹脂製品を製造している主要取引先からの受注が好調で、新たに工場増設による増産計画も打ち出しており、更なる受注量の増加が見込まれる。
		鉄鋼業（総務担当）	・自動車や建設分野の需要が上向くと想定され、供給の逼迫が継続する見込みであることに加え、市中在庫も適正レベルで推移していることから市況も引き締まる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・電子材料と電池材料は生産量、販売量共に高位継続する。
		輸送業（支店長）	・地元プロ野球チーム優勝に伴うセールのダイレクトメールの発送が増え、その受注効果がしばらく続く。
		輸送業（経理担当）	・現状の堅調な流れが続き、倉庫案件中心に堅調に推移する。
		通信業（営業企画担当）	・既に情報通信を取り扱っている客からの新サービスの導入検討の話があり、販路が拡大しつつある。
		広告代理店（営業担当）	・客の進行状況から年末年始の販売促進拡大時期に入るので、受注量は上向きになる。
		会計事務所（職員）	・地元プロ野球チームのリーグ優勝で小売業や飲食業に良い影響が出てくる。ただ前年の優勝記念セールでは予想以上の売上があったが、利益面は期待した以上ではなかったため、景気が大きく好転するまでには至らない。
		農林水産業（従業員）	・魚の需要が高まる要素はない。
		食料品製造業（経営者）	・来客数が減少して量的に出る商品が売れず、高額品が徐々に出てきているが売上に寄与するまでには至らない。
		食料品製造業（総務担当）	・商品のパリエーションを変更するので値上がりと誤解されるものもあって正月商戦に不安が残るが、品質を保ちながら商売を行うのでそれほど売上に変化はない。
		化学工業（総務担当）	・内需拡大は望めないなかでの総選挙で景気の先行きが不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大型案件の生産は数か月継続し、通常品の生産量も現在水準が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・受注見通しに変化がない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・新製品の受注量は旧モデルをしのぐ勢いであるが、全体の受注量は前年度並みである。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・依然として足元の仕事量はあるが、船価の高いものではないので収益的には厳しい状況が続く。
		建設業（総務担当）	・この先1年は現状が継続する。
		建設業（総務担当）	・総選挙が決まり、当面様子見が続く。
		通信業（営業担当）	・消費税率引上げや総選挙などで景気へのテコ入れの方針が見いだせないことから、景気浮揚の見込みは薄い。
		金融業（融資企画担当）	・為替が円安傾向のなかで、地元完成車メーカーでは新型SUVの輸出が好調であり、当面は地元の系列自動車部品メーカーの受注は高水準を維持する。
		金融業（貸付担当）	・輸出入額は前年度プラスを維持しており、貿易バランスも輸出超過が続く。
		木材木製品製造業（経理担当）	・前年までの住宅ローンの金利低減や相続税制対策も一巡し、新設着工戸数も減少傾向にあり、将来的に当業界の景気はやや悪くなる。今後はリフォームや非住宅等の新たな新市場の開拓が当業界の景気を左右する。
	金属製品製造業（総務担当）	・原材料価格が高騰したため、10月から購入価格の上昇は避けられない。コストアップ分を製品価格に転嫁するため得意先へ交渉を行っていくが、満額回答とはならない可能性が高く、厳しい状況に拍車がかかる。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・製品材料の高度化と製造難易度の上昇に対して販売価格の抑制傾向が強く、なかなか利益に結び付かない。	
	不動産業（総務担当）	・年末にかけて賃貸住宅の需要は例年どおり落ち着く。	
	x	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きが悪い状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連  (中国)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・政治情勢が不安定であるが、求人数と求職者数の増加傾向は続く。
		人材派遣会社（支社長）	・採用に苦しむ企業からの受注は更に増加していく。
		人材派遣会社（支店長）	・今後も求人数は伸びるが、求職者数に限りがあるため賃金などの条件を改善した求人人が集まるようになり、今までと同じ仕事でも働き手の収入を上げる方向に向かう可能性があり、企業の体力が人材確保の鍵となる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・中途採用の結果次第で新卒採用は更に求人数が増える可能性がある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業側の雇用体系と求職者のマッチングができれば、まだまだ景気は上向くが、人材確保に伴う企業負担が過度に大きくなると、企業の業態縮小などマイナスになる側面もある。
		職業安定所（雇用開発担当）	・当安定所管内の9月の有効求人数は前年同月比で、平成28年1月以来のマイナスとなっているが、求人者からは採用を増やす話が圧倒的であり、しばらくは好況が続く。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・国政の動きが不安定なので景気に変化はなく、人手不足も継続する。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・新卒の内定状況が91.7%であるが、メーカーと流通業が採用に苦戦しており、売手市場が続く。中途採用の求人数も減少することはなく、現状がしばらく続く。
		職業安定所（所長）	・求職者の減少傾向から人手不足感が一層強まっており、少しでも応募者を増やすため、契約社員から正社員に切り替えて募集するケースが増えてくる。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・今年度に入り有効求人倍率は1.3～1.4倍で継続して推移しており、大規模な企業倒産の話もないため、大きな動きにはならない。
		民間職業紹介機関（職員）	・相変わらず人手不足感は続き、優秀な人材の獲得が即ビジネス拡大につながる現状では、求人ニーズに関係なく人物ありきで採用を検討する傾向が続く。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・政治的な動きの変化はみられるが、その結果次第で景気は左右される。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・採用予定者数を充足できない話が多いが、求人数を新規に増加するという話はほとんどない。
	学校〔大学〕（就職支援担当）	・企業の採用動向はほぼ前年並みで、現状で劇的な変化は見込めない。	
	-	-	-
	x	-	-

#### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)		美容室（経営者）	・11月は客の動きがまた悪くなるが、年末を迎える12月には活気が出てくる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・ここ1か月ほどは来客数が減少傾向になっているが、販売額は上昇している。今後にも期待したい。
		百貨店（販売促進担当）	・台風の影響を除くと前年並みの売上を確保している。7～8月と比べると状況は少し良くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	・気温が低くなると、アウターや重衣料が動き出して売上も伸びる。ある程度、景気も良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・秋冬本番となり、回復基調になる。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの広告宣伝や販売店での自動ブレーキ訴求により、乗換え需要が底堅く推移している。
		住関連専門店（経営者）	・近隣の土地が造成され、かなり住宅が建っている。家が完成すれば、家具など住宅関連商品の購入が見込まれる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・年末にかけて、少しずつ良くなっていく。
		観光型旅館（経営者）	・地元で国体や障害者スポーツ大会が開催されることや、地元の温泉地区に新しい温泉施設がオープンしたことなどから、11月頃まで予約状況は例年より良い。
		タクシー運転手	・例年11～12月は移動回数や飲み会が増え、タクシー利用も増える。
	通信会社（営業担当）	・新型スマートフォンが続々登場し、冬商戦が活発化すると期待している。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		通信会社（技術）	・年末に向けて、特別サービス等のイベントが豊富にある。	
		通信会社（営業部長）	・新商品の発売時期であり、冬商戦が始まる。	
		美容室（経営者）	・年末にかけて来店数が増える。	
		商店街（代表者）	・12月には商店街内に都市型ホテルがオープンし、また飲食店などの新規出店もあって、景気は良くなる。しかし、消費税増税に対する消費マインドの低下が不安視される。	
		商店街（事務局長）	・総選挙の結果次第では政局が大きく動き、経済への影響が少なくない。消費税増税が凍結されると、消費にとっては明るい兆しにつながる。	
		商店街（代表者）	・北朝鮮情勢や総選挙などから先行きに不透明感が増し、消費意欲の低下が懸念されるが、年末に向けて、多少なりとも消費拡大を期待する。	
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・問い合わせは多いが、購入や予約を迷う客が多い。	
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店を控え、10月以降は客の争奪戦が激しくなる。単価の下落につながり、売上増が見込めなくなる。	
		スーパー（財務担当）	・業態を超えた競争が更に激化する。	
		コンビニ（店長）	・客単価が伸び悩んでいる。消費者はより安い店へと向かっているのではないか。	
		コンビニ（商品担当）	・外的要因も含めて、良くなるとは思えない。	
		コンビニ（総務）	・地方の景気が先行き不透明のなか、消費税増税を控え、今後ますます消費は冷え込む。	
		衣料品専門店（総務担当）	・購買意欲は下がったままだが、気温が順調に下がると客単価は上向く。	
		家電量販店（副店長）	・客の財布のひもは固いままだ。	
		乗用車販売店（従業員）	・新車はますますだが、その他は落ち込んでいる。全体では、良くもなく悪くもない。	
		乗用車販売店（営業担当）	・受注状況は悪くはないが、新規客が少なく、先行きには期待できない。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・来店客の減少はもうしばらく続く。	
		都市型ホテル（経営者）	・愛媛県と共同開催する国体が始まるので、前年よりも宿泊客の増加が見込める。	
		旅行代理店（営業部長）	・海外では北朝鮮のミサイル問題やヨーロッパのテロ事件など、国内では総選挙が実施されることから、旅行は控えるのではと心配している。	
		通信会社（支店長）	・年内は、大きな変動要素が見当たらない。	
		競輪競馬（マネージャー）	・来場者は高齢者層が主流で、若者や中年層の利用が低調であることから、状況が好転することは見込めない。	
		コンビニ（店長）	・人口減少、高齢化を背景に、コンビニ、ドラッグストア、外食の出店が続いており、売上減は止まりそうにない。	
		乗用車販売店（従業員）	・解散総選挙が不安定要素として大きい。自動車販売に動きはなく、景気が上向くとは考え難い。	
		乗用車販売店（従業員）	・新車の受注は今後も厳しい。	
		観光遊園地（職員）	・国体終了に伴い、来県者が減少する。	
		×	商店街（代表者）	・消費税が10%になれば、日本経済の長期衰退が予測される。
		×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・総選挙が決まり、ますます景気が悪くなる。
企業 動向 関連 (四国)		*	*	
		木材木製品製造業（資材購買）	・住宅メーカーの受注は前年比でマイナス幅が縮小傾向にある。前年並みなら健闘しているといえる。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・年末に向けて一番需要が伸びる時期なので、今以上に売上が伸びると見込む。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・長期の仕事に加えてバイオマス発電を受注することになり、少しは良くなる。	
		輸送業（経営者）	・不安要素が爆発しない限り良い。	
		農林水産業（職員）	・青果物の動きから景気回復感は見受けられない。宅配運賃の値上げが果物等の贈答品需要に影響するとみられる。市場入荷量が価格を上下させる部分が大きい。	
		食料品製造業（経営者）	・円安で原材料のコストアップが懸念され、利益を圧迫する。	
		鉄鋼業（総務部長）	・産業用機械はやや上昇傾向にあるが、造船は引き続き低迷が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経理）	・市場の変動要因を認めず、デマンドも総じて安定的と見込んでいる。得意先からの受注及び受注見通しも同様である。
		建設業（経営者）	・総選挙で良くなることを期待する。
		輸送業（営業）	・総選挙が終わるまでは購買意欲の低下等による消費の低迷は必至で、取扱物量増は到底期待できない。新政権誕生後の購買意欲向上による消費回復に期待する。
		通信業（総務担当）	・景気の変動をもたらす事象が見当たらない。
		金融業（副支店長）	・取引先企業では運転資金・設備資金の需要に大きな変動は見られず、景気の先行きに対する不透明感から、設備投資には慎重な姿勢が見受けられる。
		広告代理店（経営者）	・インバウンドなどで好調なホテル関係からの販促広告は多少増えているが、多くの取引先ではあまり変わらない見込み。
		公認会計士	・関与先企業の経営者の話では、地元開催の国体に期待しているが、一般的に設備投資は控えめで、景気はしばらく変わらない。
		繊維工業（経営者）	・新しいものに取り組みか、全く形態を変えるか、そうしなければ小売店は消費者の支持を得られない。少子高齢化が進み、国内消費は厳しくなる。
		化学工業（所長）	・人手不足でコストがかさむ。販売価格に反映させると価格競争力を失い、受注が低調になる恐れがある。
		建設業（経営者）	・自治体の発注量が回復しないと、見通しは悪くなる。人手不足が慢性化し、大手との競争に勝てないことが顕在化すると、更に悪いシナリオになる。
		通信業（営業担当）	・ナショナル企業によるテレビのスポットCMの出稿は、地方にまでは及ばない。デジタル広告へのシフトの影響も、徐々に感じられるようになってきた。
		x	輸送業（支店長）
雇用 関連		-	-
(四国)		人材派遣会社（営業担当）	・求人数も求職者数も旺盛で、より多くの雇用が生まれる可能性がある。
		人材派遣会社（営業）	・国体開催で地元の良さをアピールでき、今後は観光客の増加が期待できる。しかし、その受け皿を担う人員確保と人材育成が今後の課題となる。
		求人情報誌（営業）	・地元だけでの人員確保は難しく、Uターン者の確保が急務なのだが、積極的なコスト・労力をかけられない企業が多い。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・年末に向けてアルバイト募集が増える一方、正社員募集の減少が予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業から前向きな話を聞かない。消費動向も低調である。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は前年7月以降、1.3倍以上が続いており、大きな変動がない。
		職業安定所（職員）	・安心して働ける環境になる気配がない。
		民間職業紹介機関（所長）	・高校の面接指導の機会があるが、高校生を採用できないという企業側の事情もあり、高校生の多くに有名企業の採用試験の機会が与えられている。企業では、よほどの理由がない限り、採用する方向で考えているようだ。
		学校〔大学〕（就職担当）	・大手は一段落したが、中小企業は内定を得ていない学生に今後もアプローチを続けていく。しかし、企業側と学生との間にある賃金水準のギャップが解消されずに、結局、雇用にはつながらないとみる。
		x	人材派遣会社（営業担当）

#### 10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		都市型ホテル（スタッフ）	・11月までは前年よりも上回っている。ただし、12月以降は前年の方が良いため、楽観はできない。
		商店街（代表者）	・今後気候も良くなるので来客数も増える。
		商店街（代表者）	・喪中はがき及び年賀状、年末催事案内などで印刷関係が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・客の様子から、売上及び売上点数が底を打ったようである。
		商店街（代表者）	・自然現象による特殊な状況で、最悪の状況は2～3か月後には解消される。今月に比べれば良くなるが、景気が良くなったということにはならない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・一番の稼ぎ時の年末に向かうが、ここで伸びなければ商売とはいえない。それほど覚悟と気持ちで迎えるが、消費税増税が本当にあればまた景気が落ち込み、売れない日々が繰り返される。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・今年は比較的涼しくなるのが早く、それにつられて鍋物需要が良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・熊本地震で店舗を解体した後、7～9月は仮店舗で販売していたが脇や上から直射日光が当たりとても商品を並べられるような状態ではなかった。今後気候が良くなれば商売もしやすくなり来客数も増え、売上も伸びる。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・気候に左右されやすいが、これから年末まで年間を通して売上は最も増加する。
		百貨店（マネージャー）	・外国人観光客による購買が前々年までに回復してきている。
		百貨店（店舗事業計画部）	・年末年始に向けてクリスマスを始め催事が増えてくる。商戦は直近化・短期化の傾向が強まっているが、ふだんは節約をしても特別な日にはぜいたくをしたいと考える消費者も多く、購買意欲は高まっていく。
		コンビニ（経営者）	・総選挙の結果によって大きく景気が変動する。以前と比べ60～70代の高齢客が増えている。遠くのスーパーマーケットよりも身近なコンビニエンスストアの利用度が高まっているようである。
		家電量販店（従業員）	・寒くなってきて季節商材の需要が増えてくる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・夏場の需要が少しずつ終わり、季節商材が消費される季節になってきた。今後は前年同様、若しくは10%客が増える。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・クリスマスから年始までは需要向上で、売上回復が見込める。
		ドラッグストア（部長）	・今月は台風による一過性の落ち込みと考え、気温が下がってくる季節には回復している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・気候も良くなり秋の行楽シーズンを迎え人も多くなる。来年に向けての明治維新150年の催事及び、大河ドラマの影響でかなり売上の増加が見込める。
		高級レストラン（経営者）	・10月に入ればいろいろ行事があるので、予約も増えてきており何とか良くなっていく。アジアからの外国人観光客が増えてきており、宴会も多いので今後期待している。
		都市型ホテル（販売担当）	・繁忙期ということもあるが、客単価が上がってきている。
		都市型ホテル（副支配人）	・11～12月は、6週連続金土日曜にドームやコンサートホールで催しがあり、団体予約が非常に良い。
		タクシー運転手	・総選挙の期間中は繁華街の人数が減るので心配な面もあるが、内外の観光客が増えた分、タクシー利用も増え、売上も上乘せされている。このままの堅調さが続く。
		通信会社（企画担当）	・地方創生、観光への国策が活発で、年度を折り返した現在、現場でも動きがみられる。
		通信会社（営業）	・年末需要及び市場への依頼を厚くし、活性化する。
		通信会社（営業担当）	・天皇陛下ご行幸が決まった地域があり、その日程に向けて地域住民の熱量が急に上がっている。
		通信会社（企画担当）	・販売促進活動を行い、需要喚起を図る。
		ゴルフ場（従業員）	・これからゴルフの時期になってくる。予約状況は前年比で5%減であるが、10月からは賃金も上がるということなので少し余裕が出てきて企業などの団体客が少しずつ増えてくる。体力のある企業は旅行などを楽しむ雰囲気になってきている。ただ、若者層を狙っていかないと相対的に上がらないので企業努力をしていく。
		美容室（経営者）	・店舗が開店できず最低のどん底の状態であるが、今後は良くなる。特に年末は景気が一番いい時期である。政府も国民の生活が安定するように努力してほしい。
		美容室（経営者）	・年末に向けて購買意欲が出てくる。新製品も出てくるので販売に活かしていく。景気はだんだん良くなっていく。
		設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込み需要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・この2～3か月に空き店舗が幾つか埋まった。順調に商売がなりたてば良いのだが、町としてはありがたいことである。少しは景気が良くなっているが、全体的には売上が良くなかったとは聞かない。
		商店街（代表者）	・一般物品小売業の個人商店は、主要客の年金が減り、収入が増えない状況のなかで良くなるわけがない。大手企業や公務員以外で給料が上がったという話を聞かない。そういった状況で個人消費は伸びない。
		商店街（代表者）	・気候も良くなり健康になって食欲も出てくる。ただ、富裕層はともかく庶民が多いので年末を控えて財布のひもが固くなって売上があまり伸びない。
		商店街（代表者）	・高齢者が多い地方の商店街では、報道される景気の上向きなど全く感じられない。年金の減少や保険料などの値上げで自由に使えるお金がないとの声を多く聞く。
		百貨店（営業担当）	・季節商材の本番の時期であるが、出足は好調でそれを引っ張れるかどうかで今後が決まる。若干客単価が下がっていることが気になるが販売量を増やしていく努力が必要である。今後新たな販売促進活動としてHPやSNSなどを強化して動員につなげていきたい。10～11月は地元野球球団の優勝もある。
		百貨店（営業担当）	・慎重な購買姿勢は続いているが、日用品・精肉などの生鮮食品は堅調である。家具、家電などのリビング関連や高級輸入雑貨・貴金属・美術などの嗜好品は依然好調に推移している。
		百貨店（営業担当）	・目玉となる商品が不在である。
		百貨店（業務担当）	・客の購買欲が急に活性化することは考えにくい。ただ総選挙などの報道もあり、選挙となると来店機会が減り、先行きは不透明である。ただ、秋の始まりが例年より早いので、季節商材に期待したい。
		百貨店（営業統括）	・株価や円相場は引き続き安定しているが、政治情勢が不安定なため、全体での購買意欲の向上は限定的である。10月には総選挙があり、事前の消費を控える傾向になる。
		百貨店（売場担当）	・当社については、上期の来客数が前年を割っており、良くない。
		百貨店（経営企画担当）	・来客数は好調な一方、客単価の減少が続いている。年金や社会保障の問題、消費税増税への懸念などから、客の低価格志向の強まりは依然として強い。
		百貨店（売場担当）	・好転要素が見当たらない。
		スーパー（店長）	・野菜の値段が高騰しているが、台風も過ぎ今後順調になって、ほぼ変わらない状況になってくる。
		スーパー（店長）	・食中毒問題とマグロの売行き不振、旬のサンマは高騰で売行きが鈍く、食料品に関しては苦戦している。野菜は相場が前年の95%くらいで、全体的に前年を超えるのはかなり厳しい状況である。10月はハロウィーン関連の売行きが期待できるが厳しい状況で推移する。競合店も出店してきたのでかなり苦戦する。
		スーパー（店長）	・今後とも消費が上向き好材料は見当たらない。競合店の出店や価格競争など周りの環境が厳しくなる。
		スーパー（総務担当）	・同一の営業地域内にディスカウントストアなどの新規出店が続いており、生鮮部門の一部は持ち直しているが、価格選別志向の強い日配品や酒類は当面厳しい状況になる。
		スーパー（経理担当）	・肉・加工食品などは高品質高価格帯より廉価品の方が売れておりデフレ傾向が続いている。
		スーパー（統括者）	・新規出店時でも、特別価格商品以外のついで買いは見受けられず、個人消費には盛り上がり感がない。これまで以上に価格には敏感になってきており、手取り給与の大幅上昇などがなくない状態では景気が良くならない。
		コンビニ（経営者）	・変化を感じる要因はない。
		衣料品専門店（店長）	・やっと仮設住宅が完成し、避難者転居が始まった。災害復興の進行を見守りたい。
		衣料品専門店（店員）	・今年は冬の重衣料は必要ないのではないかと、という客の声を耳にする。今年も重衣料の動きが悪そうである。
		衣料品専門店（総務担当）	・当業界の現状や競合店舗の状況から、今後事態が好転するとは考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（取締役）	・年末商戦真っただ中で、利幅の少ないセールがあちこちで行われているが、景気が良いということではない。総選挙も始まり、税金が無駄に使われているなか、客の財布のひもが固くなっているのはここ何年も続いており、当業界に限らず消費動向は今の日本の政治状況では非常に難しく、こういった調査を毎回答えるにあたり非常に心苦しい。
		家電量販店（総務担当）	・冬商戦・ボーナス商戦までは、大きな需要が望めない。
		乗用車販売店（代表）	・変わる要因がない。
		乗用車販売店（総務担当）	・10月は自動車販売店にとって繁忙期である。10月中旬に大規模な催事を予定している。新型車の自動ブレーキなどの衝突防止システムのメリットを訴求し販売台数増加を狙う。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格の見通しは不透明である。10～11月の3連休の観光客の消費に期待したいが、10月には総選挙があり観光客への影響が心配される。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・個人客の消費に大きな変化はないが、年末まで映画の期待作がなく、集客面で年末の冬休み商戦まで苦戦が継続する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・北朝鮮情勢など国際情勢の悪化が一番の不安要素であり、これ以上悪化しないことを望む。それ以外は大きな変動要素はない。
		高級レストラン（経営者）	・気候も涼しくなり、鍋物時期になり来客数も増え良くなる。飲食業界は波があり前年比を達成できるかどうか非常に大事である。
		高級レストラン（支配人）	・来客数が芳しくない。
		スナック（経営者）	・相変わらず週末の集客が良くない。法人の団体客の減少が主な要因である。今年に入って前年割れが続いている。
		旅行代理店（従業員）	・現在の予約動向のままで推移する。年末年始も前年同月を超えている。ただ、北朝鮮情勢の長期化で、市場が冷え込むことも考慮し、早急な対策も必要である。
		旅行代理店（企画）	・商品の需要自体は、今月よりも上がる予定だが、前年比ではあまり変わる兆しはない。
		タクシー運転手	・秋にかけて様々な催事があるためタクシーの利用が増える。
		タクシー運転手	・今後は国の補正予算が作成されるが、それによって景気が良くなる。いくらかは持ち直すが個人の財布のひもは非常に固いため横ばい状況である。
		競輪場（職員）	・売上が上下に振れる要素がない。
		競馬場（職員）	・現時点で変更となる要素がない。
		理容室（経営者）	・暑さも和らぎ涼しくなってきたおり、後半は特に客の動きが良くない。2～3か月先は大きな催事もなく人が動く要素がない。客の話を聞いても景気が良くなるといった話は聞かない。
		美容室（店長）	・年末が近づくと周りの店舗も活気付いてくるので多少影響はあるが大きな変動はない。
		設計事務所（所長）	・ここ半年間、コンスタントに仕事があり、量的には変わらない。良くも悪くもない。
		設計事務所（所長）	・世界情勢や政治動向が不透明なので、どちらに転ぶかは不明である。
		住宅販売会社（従業員）	・競合などにより厳しい状況は続いているが、商談客としては一定数おり状況は継続する。
		住宅販売会社（代表）	・現状で景気が良くなる要因としては、一時的な増税前の駆け込み需要しか思い浮かばない。人口が減少しているなかで新築住宅で考えると今後減少傾向になっていく。後は既存住宅のリフォームやリノベーション、耐震リフォームなどが可能性としてはある。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・選挙期間は何どの業界も閑散期であるというが、さらに政治不安や将来に対する不安、高齢者負担、年金などにより客の財布のひもは固くなっている。厳しい状況が続く。
		百貨店（販売促進担当）	・景気回復と言われているが、来客数の減少は変わらず、それに伴い売上も減少する。
		スーパー（店長）	・現状の社会情勢からは先行き不透明である。
		コンビニ（店長）	・海外情勢と時期を誤った総選挙により、政治経済が不安定化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当・店長）	・弁当を宅配するサービスがあるが、人手不足により届けることができない状況が続いている。それによる影響で店に打撃を与えている。
		衣料品専門店（店長）	・年末にかけても景気はあまり良くならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・しばらくは年末に向けて来客数の減少が続く。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・アベノミクスの失政の影響がある。
		一般レストラン（経営者）	・総選挙が始まるとどうしても飲食業自体が悪くなるので、あまり期待していない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・北朝鮮情勢の影響により外国人観光客が減少する。
		タクシー運転手	・北朝鮮情勢と総選挙など、景気に対してはあまり良い影響がない。年末にかけては景気はやや下向きになる。
		観光名所（従業員）	・これから閑散期に入ってくるのと、凍結やチェーン規制などかかってくるため来客数は減る。
		音楽教室（管理担当）	・受験、転勤の時期になるので生徒の動きがある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・来年4月に予定されている介護報酬改定が厳しい状況となることが予想されるなかで、損益も悪化していく。
		住宅販売会社（従業員）	・総選挙による1か月の政治的空白と、経済の低下及び選挙の結果によっては尾を引いて政治的な動きが取りにくい状況になり、せっかく景気が上向いてきたがここにきて若干低下する。
	x	-	-
企業 動向 関連  (九州)		農林水産業（経営者）	・スーパーマーケットや居酒屋向けは、運動会や行楽シーズンと重なり、かなり期待できる。今夏暑かった分、秋はかなり気温も下がりそうなので消費にも大きく貢献できる。ただ、涼しくなると鶏肉の生産量が増え、供給過多により相場が下がる可能性がある。冷酒加工メーカー向けは毎年この時期、年末年始の生産に入るため受注量が増えてくる。
		農林水産業（従業員）	・良くなってほしいものである。
		化学工業（総務担当）	・年度末にかけて需要期となる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・秋口の受注もいくらか入っており今よりは良くなる。今年は集中豪雨などの天候により売上に苦労したが今後良くなる。
		鉄鋼業（経営者）	・出荷数量が徐々に増加しており、荷動きが回復している。また新規契約も波はあるが以前よりも堅調に推移している。今後も建築のみならず土木も含めた商談が期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注量や客の動きから秋にかけて動きが良くなる。総選挙の結果によってはこの動きが阻害される懸念はあるが、現在の状態では若干の上昇が見込める。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客への引き合い時の声として今後も受注量は増える。
		電気機械器具製造業（取締役）	・自社及び取引先においても人手が足りないくらいの仕事を抱えている状況である。
		精密機械器具製造業（従業員）	・前月に引き続き、受注先の工場が工事計画のため、作り溜めとして受注量が増産している。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車両の立ち上げにより生産量が増加している。
		金融業（従業員）	・自動車の国内販売が増加してきているほか、海外向けも好調である。また、企業の新規求人は増加し、雇用者所得が持ち直してきており、旅行業取扱額や外食産業の売上も増加してきている。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・総選挙による影響がある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・当地は熊本地震の復興需要があるが、進んだのか止まっているのか分からない状況である。街中に空き地が増えたが、今後建物が増えてくれば少しは良くなるが、なんとなく空き地が増えるだけのようで不安である。
		農林水産業（営業）	・現時点がますますなのでこの状態が継続する。
		食料品製造業（経営者）	・生産量・販売量共に受注が見込めている。
		家具製造業（従業員）	・2～3か月先の物件情報は増えていない。12月の季節指数は110%位だが見積りは前年より少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（事業統括）	・北朝鮮情勢と総選挙とで影響は全く異なってくる。
		その他製造業〔産業廃物処理業〕	・買手が現在の相場を信用していないのか、下げの姿勢が見て取れ、景気は変わらない、もしくはやや悪くなる。中国に売りたくても受け入れが規制されてきたため、今後は難しくなる。
		建設業（経営者）	・建設業においては3か月という短期間では景気の動向は変わらない。
		建設業（社員）	・第2四半期に比べ、第3四半期の発注が少ないのは発注予定を見れば一目瞭然である。当社は今の時期いかに多く受注できるかが、年度末に向けての試金石である。技術者は多く在籍しているのもっと受注していきたい。
		輸送業（従業員）	・貨物が増える話はあるが、当地の場合は九州で1極集中となっており、需要と供給が一致しておらず、景気の好転に直接結び付かない状況である。また、商品の荷動きが良くないことが、倉庫不足の要因である。
		輸送業（総務担当）	・食品関係は堅調に推移しているが、衣料品関係はやや落ち込み気味である。全体的には変わらない。
		金融業（従業員）	・これといった好材料もないが、悪材料も見当たらない。ただし、総選挙の結果によっては上向きになる可能性もある。
		金融業（調査担当）	・不動産価格の上昇に注視している。
		金融業（営業）	・人材の確保ができれば、売上を拡大できるだけの需要はあるが、人材が問題である。現状維持の状態が続く。
		不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移しており、今後も継続する。
		経営コンサルタント（社員）	・今月もこれから販売促進活動を開始するが、おそらくいつもの月と変わらない。
		経営コンサルタント（社員）	・閉店している店が増えた。業態変更が進んでいる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社ホームページのアクセス、問い合わせ件数に変化がない。
		繊維工業（営業担当）	・天候の異常で雨が多いか、北朝鮮情勢とか、政治の不安定さで財布のひもが固くなっている。先の分からない状態で衣料品にお金は回らない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・受注量の見込みが影響している。
		建設業（従業員）	・見積案件も少なく、人材不足で受注が難しくなってきた。選別して受注しているので少し景気が悪くなる。
		通信業（職員）	・自部門の受注額は8月末時点で標準進捗を10ポイント以上上回っているが、今後は大規模な案件が減り、緩やかにしか伸びない。
		金融業（営業担当）	・昨今の政治、北朝鮮情勢及び総選挙などにより先行きが不透明になっている。心理的な面もあり若干景気は悪くなる。
		広告代理店（従業員）	・新聞折込の9月受注枚数は、前年同月比88%と今年度最も悪い実績であった。全ての受注状況が悪いわけではないが、新聞関連の販売促進費用は伸びがない。総選挙があるようだが、景気にどう作用するのか、購買意欲が活況になり、販売促進経費が増加するのを見守る。
		その他サービス業〔物産リース〕（支社長）	・政権が不安定である。本当に戦争が起こったらと考える経営者が多い。そういう意味で先行き不安感がある。
	x	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村が発注する調査や計画策定を行うコンサルタントは、調査や計画業務の発注数自体が少ないなかで、九州北部豪雨によって業務を請ける機会を失ったことにより、更に売上が少なくなる。景気が悪くなる。
雇用関連		-	-
(九州)		人材派遣会社（社員）	・既存の客からお歳暮時期の求人依頼もきている。求人誌、新聞などの求人欄も多く、ハローワークの求人情報も厚くなっている。また新規開店や工場の改装などもみられ、人手不足感が漂っている。
		人材派遣会社（社員）	・繁忙期に伴う業務量増加で、問い合わせは更に増えていく。
		職業安定所（所長）	・年末へ向けた消費が上向き、非正規の求人の増加が見込まれる。
		民間職業紹介機関（社員）	・コールセンター、通信業界の販売促進活動の活発化に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・賃金の上昇の一途が続くまでの状況ではない。企業では採用が難しいなか、業務の外注化やシステム化、海外への業務集約など、採用以外の打開策の検討が進んでいる。そのため求人数がこれ以上増加し続けることはない。新規求人の賃金上昇が落ち着けば、人材の流動化も少し緩やかになる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・自社も含め、若い人の退職が目立つ。いわゆる転職である。各企業とも人手不足ではあるが、待遇より自分に合った環境での仕事を選ぶ傾向があり、決して景気が良いということではない。
		職業安定所（職員）	・事業所に業況調査をしても今後の景気状況については不明との回答が多く、様子見をしている事業所が多い。
		職業安定所（職員）	・介護分野も人材が不足しているが、特に訪問介護の場合、勤務時間や雇用関係が不安定であることもあり、希望者がほとんどいない。事業者によっては、人材不足のために利用を断らざるを得ない状況も生じている。
		職業安定所（職員）	・鉄道業を運営する企業の情報によると、市内の人口減少により、通勤、通学、買物の利用者が減っているため業績が上がらないようである。
		職業安定所（職業紹介）	・今後も求人数の増加傾向と求職者の減少傾向が続き、有効求人倍率は高い水準で推移する。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・採用予定数を充足できていない企業は、継続的に求人活動を行っている。ただし、景気と求人状況との関連性については明言できない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・総選挙の結果を受けて購買意欲がどうなるかわからない。
		人材派遣会社（社員）	・総選挙による特需はあるが限定的であり、時期的には年末に向け採用は減少してくる。
		人材派遣会社（社員）	・労働契約法の影響が出る。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大手求人企業の寡占化により、中小企業の人材採用が難しくなっている。
	x	-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)		観光型ホテル（マーケティング担当）	・今後2～3か月先の客室稼働率見込みは大幅に良い状況ではないが、稼働率の落ち込みが激しかった今月と比べると、前年同月実績並みに回復する傾向である。
		ゴルフ場（経営者）	・販売価格を上げたにもかかわらず、利用客数は今の段階で予想を上回っている。
		一般小売店〔菓子〕（企画）	・行事への商品提案に力を入れていくことで、手ごたえを感じつつある。
		百貨店（店舗企画）	・インバウンド客を意識した特設コーナーや企画など、アジアから見た日本の玄関としての企画を増やしつつあり、その効果に期待したい。
		スーパー（企画担当）	・購買意欲は、年々拡大傾向にある。
		コンビニ（経営者）	・建築中のマンションが増加しているので来客数の増加が期待できる。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・インフラが整ってきて、インバウンドの観光客が増えている。観光関連はかなり良さそうであるが、飲食店は慢性的な人手不足と時給高騰、長時間労働の改善などに追われ、営業面で機会損失を起している。
		旅行代理店（マネージャー）	・年末に向けての問い合わせも多いことから、少しだけ状況が回復している。
		通信会社（店長）	・新商品の発売があり、10月以降は販売数が伸びると予想している。話題性もあり客数増も見込まれ、提案により販売につなげることができれば更に伸ばすことができる。
		住宅販売会社（営業担当）	・今後も建築費の上昇が予測されるため、今月に入り前倒し契約受注があり、前年比で30%の増加である。
		スーパー（販売企画）	・商圏内への競合店の新規出店があり、客数が減少する可能性がある。また1品単価も落ちてきている。
		コンビニ（代表者）	・来客数は今後も安定して継続する。
	衣料品専門店（経営者）	・月初めは来客があり、立ち上がりは良かったが、日がたつにつれてトーンが変わってきている。新しい季節の商品がそろってきており、来月に期待している。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・これから冬に向かうということもあり、良くはならない。
		観光型ホテル（代表取締役）	・入域観光客数の推移を見ると数字は伸びている。業界の全体的な景気は変わらない。しかし、会社単体では、先行きの売上予測が、前年よりも落ちている。今後は競争が激しくなりそうである。
		住宅販売会社（代表取締役）	・工事受注に関しては順調に推移しているが、現場代理人や下請業者の不足感が増しており今後の業績への影響が懸念される。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・客数微減の傾向が続いている。
	x	商店街（代表者）	・商店街の物販では特に婦人服等が大変なようで、値下げしても売れないという話をよく耳にする。強いて少し良い話をすれば、空き店舗に入ってくる人が多い飲み屋くらいであるが、売上のほどは分からない。物販の売上は厳しい状況下であり、各店舗はいつ辞めるか、というほどに危機感を抱いているようである。
企業 動向 関連 (沖縄)		食料品製造業（総務）	・年末に向かうにあたり県内経済は好調を持続する。
		輸送業（代表者）	・離島の生コンの出荷量が増勢基調である。公共工事が需要期を迎え好調な上、リゾート関連のホテルや販売店等の民間工事がめじろ押しである。アスファルトが増勢となるのは、少し時間が掛かりそうである。
		輸送業（営業）	・県内への流通量は顕著に増えているとみられる。今後も同様の見込みである。これに対し、増加する取扱物量に対応する人材は不足気味で、人材確保のための待遇見直しも、原資となる荷主への料金改定の理解を頂きつつ推進することが急務である。昨今の労働基準の問題も重なり、労働力確保が収益改善、確保の最大の課題である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・やや良くなりつつあるが、現状維持の見通しである。
		建設業（経営者）	・新築とは別に、リフォームの受注が低調気味である。
		広告代理店（営業担当）	・県内における民間企業の販促活動への投資予算は、業種態によって様々だが、全体としては横ばいである。今後も大きく伸張する要因は見当たらないことから、現状維持が当面の見通しである。
		-	-
x	-	-	
雇用 関連 (沖縄)		人材派遣会社（経営者）	・景気は良くなるとみられるが、求人依頼の増加に比べ、求職者が減っているため、派遣の数字としては少しずつしか伸びない。正社員については求職は多いので、今後紹介等が増えていくとみられる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・年末に向けて求人数が増える。
		人材派遣会社（総務担当）	・引き続き企業からの旺盛な受注はあるが、人手不足でマッチングができず迷惑をかけているのが現状である。
		職業安定所（企画事業所部門（求人））	・人手不足の状況でも、企業は契約社員から正社員への登用といった雇用形態の見直しや昇給などを行う傾向が弱く、大きな変化は2～3か月後も変わらないと考える。
		学校〔大学〕（就職担当）	・大学は夏季休暇が明け、後期開始とともに就活学生の動きが再び活発になる。10月以降の求人の動きについても期待したい。
		求人情報誌製作会社（編集室）	・毎年、年末に向けて件数が減少する傾向にある。また、10月から最低賃金が時給737円になり、引上げ幅は23円で過去最高の上げ幅となった。上げ幅が大きいこともあり、平均賃金の底上げにはなるが、一部の中小企業では人件費などの負担がのしかかり、経営にも影響が出ると予想される。それでも求人広告は出さざるを得ない状況である。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・落ち着いた下期を予想していたが、衆議院解散総選挙の話が出てきたので慌ただしくなるとみられる。
	x	-	-